



株式会社リヴァックス CSR 報告書 2014



contents

第1章

はじめに

CSRの考え方／ ミッション・理念	3
社長メッセージ	4
循環型社会における リヴァックスの役割	7
2013年度ハイライト	8

第2章

経営

事業活動	9
経営計画	12
財務情報	13
マネジメントシステム	14
法令順守	16
目標と実績	17
情報開示	19

第3章

環境

環境	21
マテリアルバランス	22
廃棄物フロー	23
リサイクル率	25
環境負荷低減の取り組み	26

第4章

人権・労働慣行

労働安全衛生	30
教育・訓練	31
人事制度	32
人材力向上のために	34
社員座談会	35

第5章

コミュニケーション

コミュニケーション	37
消費者課題への取り組み	39
2013年度に発生した 苦情・事故	40
トップダイアログ	41

第6章

資料

CSRの歩み	44
マテリアルバランスの 経年変化	45
過去の苦情・事故	46
ISO26000対照表	49
アンケート集計結果	50

会社概要

会社名	株式会社リヴァックス
所在地	兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号
設立	1974年（昭和49年）3月26日
代表者	代表取締役社長 赤澤 正人（2014年10月1日就任）
資本金	8,100万円
従業員数	38名（2014年3月末現在） ※うちアルバイト1名含む
売上高	17億4,928万円（2014年3月期）
URL	http://www.revacs.com/
事業内容	産業廃棄物の収集運搬 産業廃棄物の中間処理（破碎・乾燥） 特別管理産業廃棄物の収集運搬 廃棄物の総合リサイクル事業 環境コンサルティング

グループ会社

会社名	株式会社リリーフ
設立	2010年（創業1960年）
URL	http://www.relief.revacs.co.jp/
事業内容	遺品整理・住環境整備業 一般廃棄物処理業（西宮市）

会社名	株式会社大協
設立	1976年
URL	http://www.d-aikyo.co.jp/
事業内容	グリストラップ清掃業 一般廃棄物処理業（伊丹市）

グループ会社は事業領域が異なるため、各社ごとに報告書を発行しています。詳細はURLをご参照ください。

編集方針

本報告書は、リヴァックスのさまざまな取り組みについてステークホルダーの皆様にお伝えすると共に、皆様からご意見を賜るための重要なコミュニケーションツールの一つとして、発行しています。

「CSR報告書2014」の特徴は以下のとおりです。

- ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である「①組織統治、②人権、③労働慣行、④環境、⑤公正な事業慣行、⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展」の7項目に関連付けています。
- 上記7項目をそれぞれ関連性のある項目に整理し、「経営（①組織統治、⑤公正な事業慣行）」「環境（④環境）」「人権・労働慣行（②人権、③労働慣行）」「コミュニケーション（⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展）」の4項目で編集しています。
- アンケートにて頂戴したご意見やインターンシップ生からの提案をふまえ、社会と弊社にとって重要性の高い情報を整理し、再構成しました。
- 本報告書はホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています。

対象組織：株式会社リヴァックス 全社

対象期間：2013年度（2013年4月～2014年3月）
※活動内容に一部、2014年度を含みます。

発行日：2014年10月
（前回：2013年10月、次回：2015年10月予定）

対象分野：事業活動に関する環境的側面、
社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン：

GRI「サステナビリティ・レポーティング・
ガイドライン (G3.1)」(2011年版)
環境省「環境報告ガイドライン」(2012年版)

インターンシップ生と一緒に作りました

「CSR報告書2014」は4人のインターンシップ生と一緒に制作しました。4月から半年間、4人が主体となり試行錯誤しながら、一生懸命作成してくれました。



京都産業大学 経営学部

4回生
吉田 拓矢

3回生
竹田 美成

3回生
浅野 陽香

2回生
堤 啓一

■インターンシップ生の想い

今回 CSR 報告書を作るにあたって、リヴァックスからは「これまでの報告書にとらわれず、ゼロベースで作ってみては？」という提案がありました。そこで私たちは、「この報告書を誰に読んでほしいか？」というところから考えました。

初めはリヴァックスのことを、もっとたくさんの方に知ってもらいたいと、一般消費者や学生を対象に考えました。しかし、赤澤社長から「リヴァックスの強みの一つはそこで働く人たちである」というお話を伺い、社員の方に目を向けて経営判断をされていることにとても驚きました。

そして、そんな赤澤社長の想いをきちんと伝える報告書にしたいと考え、今回は社員の方をメインの読者に設定することにしました。具体的には、環境や安全に対する取り組みについて責任者の考えや、CSRに関するこれまでの歩みを掲載することによって、なぜその取り組みをしているのかを再認識していただけるようにしました。

もちろん、社員の方にとって大切な取引先の方々にとっても価値のある報告書にしたいと思い、伝えたい情報を整理し、リヴァックスを身近に感じていただけるような報告書を目指しました。

どうやって“私たちらしさ”を出したらよいか悩んだところもありましたが、伊藤室長や新田さんをはじめ、たくさんの方にご協力いただき、「CSR報告書2014」を完成させることができました。

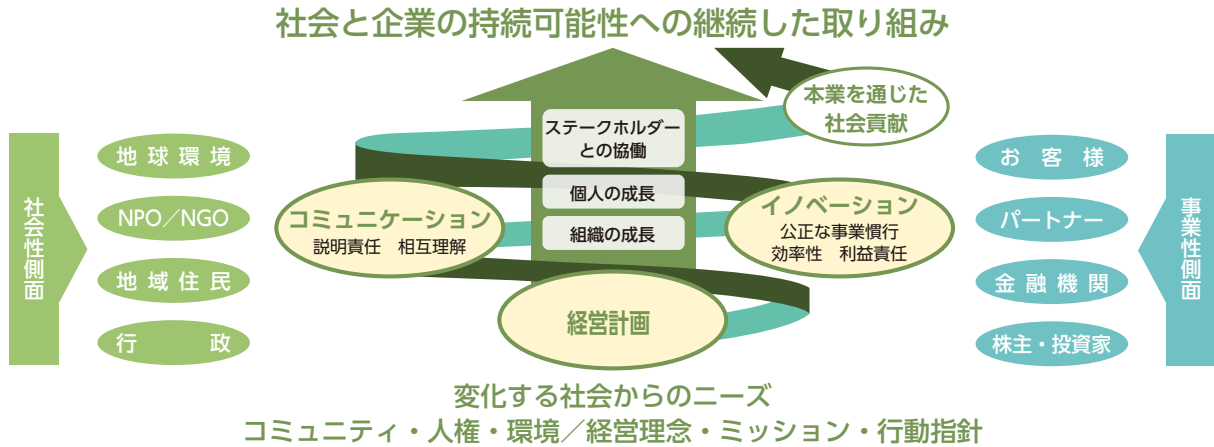
この報告書を通して、ステークホルダーの方々にリヴァックスについて理解していただくと同時に、より結びつきを強くするようなツールになればと考えています。

■赤澤社長から学生へのメッセージ

「CSR報告書」というものは、できるだけいろいろな人に関わっていただいて、いろいろな人に読んでいただくことが大事だと思っています。読まれる方の立場によって関心のある情報は異なります。だからこそ、学生さんが「リヴァックスのこんなところを世の中に伝えたい」と感じたことをストレートに表現してほしいです。

これまでの報告書に新しい考えを取り入れたいと想い、昨年は吉田君に参加してもらい、実際に気付きを得ることができました。これを受けて、今年は4名の学生さんに携わっていただいています。学生の皆さんに、私が伝えたいこと。それは「ぜひ楽しんで作ってほしい」ということです。そして、この経験を勉強や就職活動に生かしてもらえればうれしいです。リヴァックスにとっては、これも、マルチな視点を取り入れ、会社に変化を起こす取り組みの一つだと考えています。

リヴァックスが考える CSR



リヴァックスの経営理念体系

事業を行う上で、根幹となる考え方が「経営理念」「ミッション」「ビジョン」であり、それらを達成するためにパートナーへ求める人材像を「行動指針」として定めています。

※パートナー：社員並びに従業員等弊社のお客様のために一緒に働く全ての人たち





株式会社リヴァックス
代表取締役社長

赤澤 健一

「社員の笑顔」が社会や事業のすべてにつながっている

主力のリサイクルプラントが軌道に乗った

2013年度を振り返ると、個人的には「いい年だった」と思います。前年比で売上は104.8%、営業利益は117.7%と、業績は順調に推移しました。

中でも、食品製造工場から出る汚泥などを乾燥させて燃料に再生する「バイオマス資源化事業」は好調で、乾燥プラントの稼働率は90%以上で推移しています。プラントを稼働し始めて3年くらいはオペレーションの構築や燃料費の高騰に苦しみましたが、ここへ来て軌道に乗ってきたように思います。

水処理施設の清掃事業を海外へ

しかし、プラントの稼働率が90%を超えているということは処理業として売上の天井が見えているということです。会社としてさらに成長するためには、新しい事業を創造しなくてはなりません。それも、今まで私たちがやってきた事業とシナジー効果

を生むものでありたい。そんな想いから本格的に取り組み始めたのが、水処理施設などの清掃事業です。

食品や飲料の製造工場には、工場の排水をクリーンにして河川や海に放流するための水処理施設があります。弊社ではここから出てくる汚泥を乾燥処理しており、あわせて施設そのものを清掃する作業もしていましたが、それはお問い合わせをいただいた時や、取引先からのトラブル対応の要請を受けた時に限ったことで、積極的な営業はしていませんでした。

こうした中、私たちが培ったノウハウが生かせるサービスの提案や提供ができないかと考え、もともとサービスの一つであったこの清掃に注力してみようと、新たに専属の部署を立ち上げました。今後は、この事業を西日本全域に広げ、国内シェアの拡大を目指すとともに、経済成長期にあり、社会インフラが整いつつあるASEANの国々にも展開して行きたいと思います。

そして、もう一つ、今年の12月に木質系チップを利用したバイオマスボイラーを稼働します。乾燥

プラントではこれまで都市ガスを購入していましたが、この新しいボイラーは木質系チップを燃料として熱源を供給するので、化石燃料を使わずにすみません。エネルギーコストが削減できるだけでなく、カーボンニュートラルなので乾燥処理にかかるCO₂がほぼゼロになり、CO₂削減にも繋がります。バイオマスボイラーの安定稼働にも全力で取り組んでいきます。

「三方よし」が 本物の成長をもたらす

私は常に、あらゆる取引先や社員をはじめとするパートナーのみなさん、そして社会の三方が「win-winの関係」であることを目指しています。簡単に言えば、働く人が幸せでないと、取引先を幸せにはできないし、ましてや社会を幸せにすることなんてできない、ということです。

仕事を持って働くことは、非常に大事です。しかしそれはあくまで一面であって、人にはそれぞれ家庭もあれば、地域社会もあります。家庭を含めた個人と、仕事、社会、この3つがうまくバランスを取っていることが、人生にとって重要です。業績にも響いてくると思っています。業績が悪ければ、この3つのどこかがバランスを崩し、かみ合わせが悪くなっている可能性があります。

私は新規事業を立ち上げるとき、必ずアンチテーゼを投げかけるようにしています。両極端の価値観を事業の中に組み込むことでスパイラルアップしていき、より強い事業に進化していくと考えています。

それと同じくらい重要視しているのが、決定のスピードです。計画する、実際にやってみる、検証する、対処するといったPDCAのサイクルを出来るだけ早く回すことで、次々に挑戦していけるからです。

たとえ可能性のある事業でも、現在の人員体制ではやりきれない、社員が生き生きと働いていないと判断した場合は、撤退を決断することもあります。私が大切にしたいのは一緒に働く人たちであり、そ

の先にいる取引先。取引先を幸せにできるのは社員自身だと考えているので、彼らを幸せにする経営判断をすることで、取引先や社会を幸せにしたいのです。

会社と社員のベクトルを 合わせると「笑顔」が生まれる

リヴァックスの責任者として、まず方向性やビジョンを掲げ、そのための人的資源を組織し、それがきちんと機能するようにコーディネートすることが私の役割の一つと考えています。それはオーケストラの指揮者のようなものです。一つの音色だけではオーケストラにはなりません。いろいろな楽器を演奏する奏者がいて、その人たちが個々の能力を大いに発揮することによって素晴らしい音楽が作られていく。個々の能力が高くて、それぞれが突出してしまうとバランスを崩してしまうので、演奏者たちを注意深く見ながらバランスを保つことが大事だと思います。

私が言うのもなんですが、弊社で働く人たちはみんな責任感が強く、使命感を持って仕事をしています。それがマンパワーにつながっているのですが、そのバロメーターとなるのが、みんなの「笑顔」です。笑顔は、個人（家庭）、仕事、社会の関わりがうまくいっていることの証。つまり、取引先と良い関係を築き、win-winの関係の中で働いているという証明なのです。

では、どうやって笑顔に導くのか。私は、会社の向かうべき方向と、社員個人が向かうべき方向のベクトルを合わせることが大切だと考えています。彼らの中には、家庭を大切にしたいと思っている人もいれば、仕事でやりがいを感じたいと思っている人もいます。いずれにせよ、自分が目指すところに行き着くために、弊社で何をどのくらい達成すればよいか、それをお互い納得の上で決めていくことを重視しています。

具体的には個人面談でおこないますが、今年からコーチングを導入しました。これによって、働き方

は一つではないことが各々に見えてくるので、よりスムーズにベクトル合わせが進むと見ています。リヴァックスで働く一人ひとりが、会社のことを「自分のことだ」と思ってくれば、おのずと事業はうまく回るはずですし、会社も、パートナーも、取引先もみんな幸せになれる。そうなるのが私の理想です。



社会の中に課題がある そこにビジネスの芽がある

私は、会社とは「プラットフォーム」だと考えています。さまざまな人や事業が集まり、相乗効果を発揮しながらレベルアップしていく場です。情報を公開してプラットフォームをオープンにすると、そこにはマルチな視点が生まれてきます。社内では気づけなかったことを、社外の人気づかせてくれるということも起こります。私が「CSR 報告書」などを通じて積極的に情報を公開するのは、そうした変化を会社にもたらしたいからです。それが事業運営を大きく変えるかという、100%そうだとは言いきれませんが、1%でも可能性があるなら、どんどん情報をオープンにし、多様な視点を入れたいと思っています。

多様な視点は、社会の課題に気づかせてくれるきっかけになります。世の中が私たちに求めているものは何かを発見し、課題解決につながる満足度の高いサービスをご提供する。それが社会貢献につながっていくのではないのでしょうか。

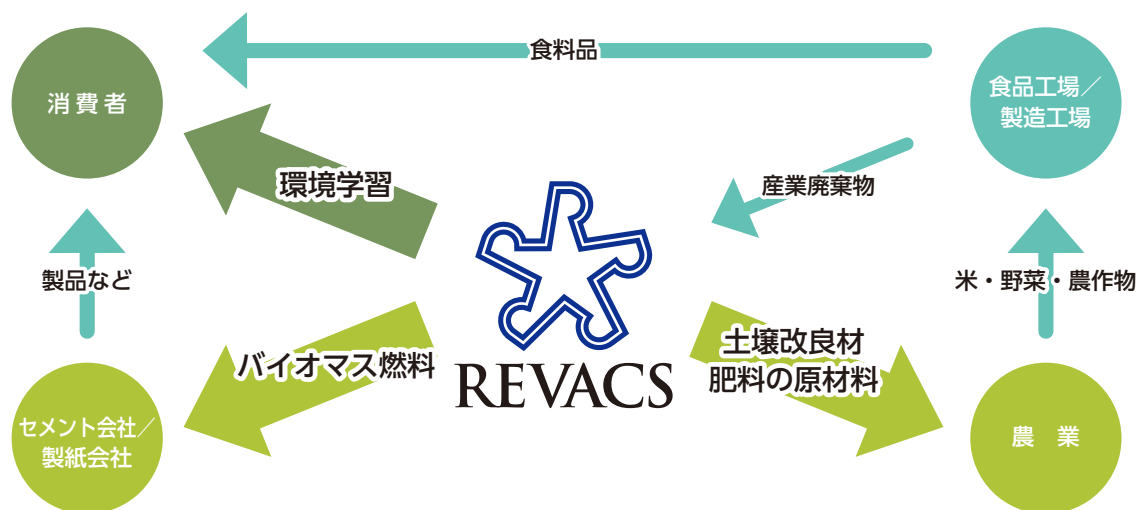
弊社は、「CSR 報告書」の前身である「環境報告書」を2002年に初めて発行しました。これは、環境ビジネスにおいて ISO14001（国際環境規格）の認証を取得していない企業とは取引しない、というビジネス社会の流れを受けてのことです。2000年に認証を取得したのを機に、弊社の取り組みを広く知っていただきたいとの想いで制作しました。

2006年には、環境だけでなく、社会貢献活動のことも盛り込み「環境・社会報告書」に改称。2007年に、阪神間最大規模の処理プラントを竣工したことにより、財務情報などの経済面もきちんと盛り込んだ報告書の必要性を感じました。ちょうど、経済同友会が CSR を提唱し始めた頃で、当時は、「環境」、「社会」、「経済」の3つを事業活動などに組み込むことが企業の社会的責任であるとされていたので、「CSR 報告書」としました。

とかく廃棄物処理事業にはグレーなイメージが付きまといがちですが、それなら、社会に理解してもらうために、徹底的に説明責任を果たそうじゃないか。しかも、ただ情報を公開するだけでなく、わかってもらえる情報にしよう。そんな想いで着手したのが、リヴァックスの CSR 報告書です。

作り始めた当初は、社員から「こんな情報を公開することに意味があるんですか」と言われたこともあります。でも2年目、3年目と回を重ねるうち、取引先から「いい会社ですね」「こういう報告書があれば信用できるね」と評価されるようになりました。そうすると、営業担当者が CSR 報告書を取引先に持参して内容を説明するようになり、CSR 活動そのものに積極的に取り組もうという姿勢が社内に生まれました。

いろいろな意味で、広がりと変化をもたらしてくれる CSR 報告書。今年も昨年同様、CSR を勉強している学生さんに参画いただき、「業界関係者だけでなく、一般の人にとっても読みやすいもの」を目指したつもりです。ご一読いただき、ぜひ感想やアドバイスをお聞かせいただきたいと思います。



弊社では食品製造・加工工場などから排出された汚泥や動植物性残さなどを乾燥処理し、バイオマス資源を製造しています。そのバイオマス資源の約半分は、肥料の原料として農家で利用されており、農家で作られた農作物はやがて食品工場にて使われます。また、提携先を通じて処理をしている食品残さなどは、牛や豚などの家畜用飼料として利用されており、こちらも循環を生み出しています。

一方、残り半分のバイオマス資源はセメント会社の燃料になります。バイオマス資源からできた燃料は石油や石炭の代わりにボイラーで燃やされ、燃焼後の灰もセメント作りに利用されています。

2013年度は、弊社で製造したバイオマス資源1,933トンが燃料として使用され、2,522トン※の二酸化炭素の排出削減に貢献しました。バイオマス資源は、化石燃料の代わりに使われることで二酸化炭素の排出量を削減することができ、カーボンニュートラルの実現につながるのです。

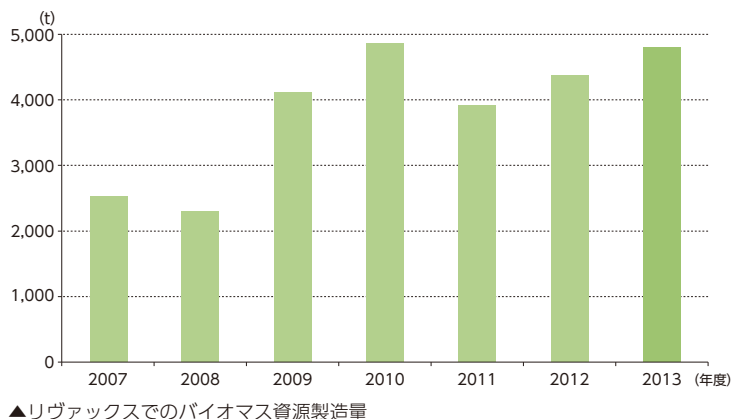
その他にも、弊社で選別・破砕されたダンボールは再びダンボールに、スチールやアルミ類などの鉄類も再びスチールやアルミへと再資源化しています。素材として再利用すること（マテリアルリサイクル）が困難な廃プラスチック類も、主に紙を製

造する際に必要な熱エネルギー（燃料）として活用しています。

このような工程を経て受け入れた廃棄物の大半はリサイクルされ、リサイクルできない廃棄物は提携先にて焼却・埋立処理をしています。

不要になった廃棄物を再び資源として活用することは、循環型社会を構築する上で重要な役割を担っています。私たちにできることは限られているかも知れませんが、常に先を見据え、社会にとって必要とされる企業であり続けるために、これからも誠意をもってリサイクル事業に取り組んでいきたいと考えています。

※バイオマス燃料の発熱量を重油に置き換えて計算



第1章 2013年度ハイライト

2013年度のさまざまな取り組みの中で、特に重要な出来事をご紹介します。

苦情件数

2012年度

0件



2013年度

0件

弊社では外部から寄せられる苦情や要望に対し、円滑に対応できる体制を整え、事業運営や業務の改善につなげています。(詳細は40ページ)

無料WEBセミナーを公開

弊社ホームページにて、産業廃棄物に関して学べるWEBセミナーを公開しています。簡単なID登録をするだけで何度も繰り返し視聴いただけ、社員の知識向上や社内の知識共有がしやすいサービスです。(詳細は19ページ)

※セミナーの閲覧には会員登録(無料)が必要です。

売上高

前年比 **4.8%** 増

営業利益

前年比 **17.7%** 増

2013年度の売上高は17億4,900万円(前年度16億6,900万円)、営業利益は7,000万円(前年度5,900万円)と、いずれも増加しました。(詳細は13ページ)

施設見学者数

474名

お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも施設を公開しています。

(詳細は37ページ)



▲基礎セミナーでの見学

優良産廃処理業者認定制度に適合

2013年7月に「優良産廃処理業者認定制度」への適合認定を受けました。(詳細は13ページ)

「環境コミュニケーション大賞」にて表彰

「CSR 報告書2013」が、「第17回環境コミュニケーション大賞」(主催：環境省、(財)地球・人間環境フォーラム)の奨励賞を受賞しました。3月におこなわれた表彰式では、報告書をともに制作してくれたインターンシップ生の吉田さんが、審査委員長より表彰状を受け取りました。(詳細は44ページ)



※環境コミュニケーション大賞：優れた環境報告書や環境活動レポートなどを表彰することにより、事業者等の環境経営及び環境コミュニケーションへの取り組みを促進するとともに、環境情報開示の質の向上を図ることを目的とする表彰制度です。

バイオマス資源製造量

2012年度

4,366トン

2013年度

4,806トン

CO₂排出削減量

2012年度

2,170トン

2013年度

2,522トン

食品製造工場から発生する有機性廃棄物などからバイオマス資源を製造しています。製造したバイオマス資源は肥料の原料や製紙・セメント工場などでボイラー燃料として利用されています。

バイオマス資源を化石燃料の代わりに使うことにより、二酸化炭素の排出削減に貢献しています。(詳細は7ページ)

リヴァックスの事業活動をご紹介します。

産業廃棄物とは？

廃棄物とは、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により、大きく2種類に分けられます。一般家庭から出る家庭ごみや飲食店・ビルから出る事業ごみは「一般廃棄物」、企業の産業活動によって出るものは「産業廃棄物」です。リヴァックスで取り扱っている産業廃棄物は、廃プラスチック類、汚泥など21種類の廃棄物が法律によって定められています。

1 収集運搬

排出事業者様を訪ねて廃棄物を積み込み、リヴァックスや提携している処理先まで運びます。廃棄物の形状は液体や固体などさまざまです。廃棄物の種類や荷姿に合わせて最適な車両を選び、安全・確実な運搬に努めています。

業務課 松田 望



脱着装置付きコンテナ車	11台
高圧吸引車	3台
平ボディ車	1台
ダンプ車	1台



▲脱着装置付きコンテナ車



▲高圧吸引車



▲平ボディ車

3 破碎・分離処理

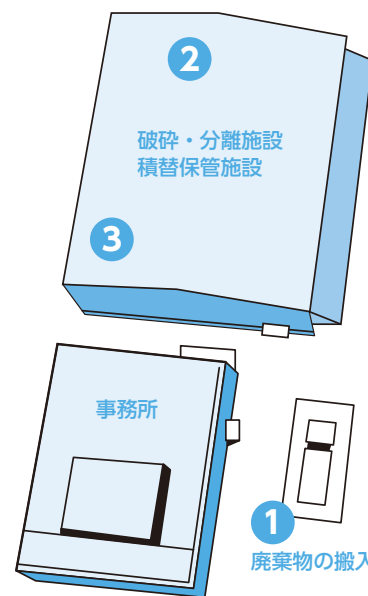
廃プラスチック類などの固形廃棄物を破碎・選別し、減容化します。

- ・処理能力：50トン/日（8時間）※授權処理能力 94トン/日
- ・許可品目：廃プラスチック類、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず 他（全8種類）
- ・設置年月日：2006年（平成18年）2月10日

賞味期限切れや不良品などにより廃棄される飲料系廃棄商品はリバース・マネジメントセンターに搬入され、開梱作業をおこなった後、破碎施設で容器と中身の液体を固液分離します。液体は乾燥施設でバイオマス資源に、容器は提携先にてそれぞれ再資源化しています。



処理センター 主任
土井 貴博



▲飲料系廃棄商品



▲破碎施設

中身



▲乾燥施設

容器



▲バイオマス燃料

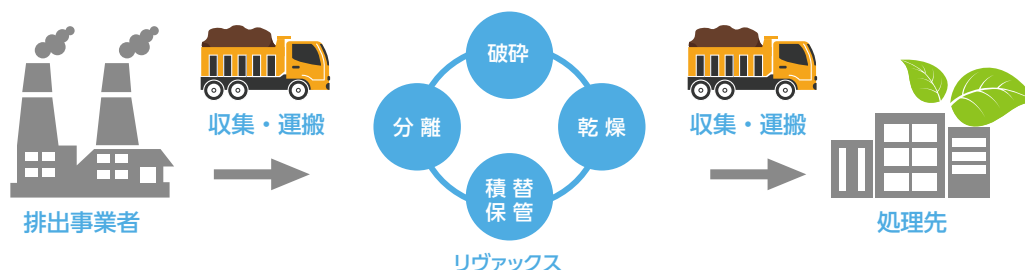


▲肥料化

提携先にて再資源化

事業フロー

弊社では、主に製造業から排出される産業廃棄物の収集運搬、積替保管、中間処理（乾燥・破碎・分離）、処理先への運搬までの一連の業務をおこなっています。



2

積替保管

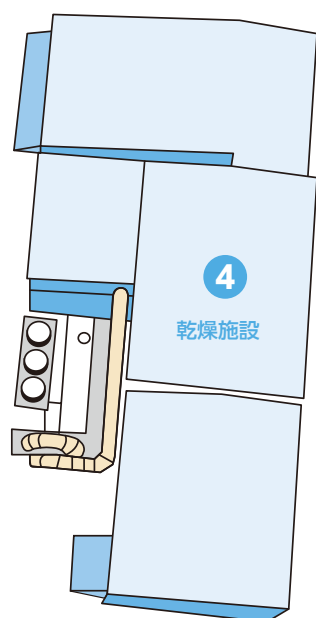
産業廃棄物の処理を円滑におこなうため、積替保管施設を保有しています。廃棄物の量や処理先によっては、収集運搬した廃棄物を一時的にその施設に保管し、一定の量が集まったらまとめて中間処理業者もしくは最終処分業者へ運搬します。

●リバース・マネジメントセンター

- ・保管容積：735m³
- ・設置年月日：2008年（平成20年）3月11日
- ・許可品目：汚泥、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残さ 他（全7種類）

●破碎棟内の積替保管施設

- ・保管容積：221m³
- ・設置年月日：2006年（平成18年）2月10日
- ・許可品目：汚泥、廃プラスチック類、動植物性残さ、金属くず 他（全14種類）



4

乾燥処理

食品製造工場などから排出される有機性廃棄物を乾燥処理し、バイオマス資源を製造しています。生成したバイオマス資源は、お客様のご要望によって、肥料の原料や製紙・セメント工場などでボイラー燃料として利用されています。



処理センター 主任 横山 優希

- ・処理能力：90.9m³/日（24時間）
- ・許可品目：汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、動植物性残さ
- ・処理方式：連続油温減圧乾燥方式
- ・設置年月日：2007年（平成19年）5月1日



▲有機性廃棄物



▲乾燥施設



▲バイオマス燃料



▲肥料化

※バイオマス燃料とは、石炭の約3分の2の熱量（4,500kcal/kg）があり、化石燃料の代替エネルギーとして使用できます。燃焼してもCO₂の発生源とみなさないカーボンニュートラルの性質をもち、省エネルギー、地球温暖化対策に貢献します。

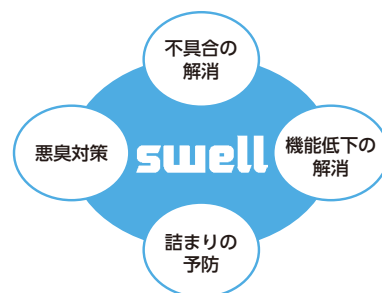
2
リバース・マネジメントセンター



確かな技術力と効率的な収集運搬によって、排水施設の設備保全業務をサポートします。

排水タンクやピット、配管などの設備は、清掃しないまま放置していると機能が低下し、処理が不十分になったり、悪臭などのトラブルを引き起こします。正常に機能させるためには定期的な清掃・洗浄が必要です。

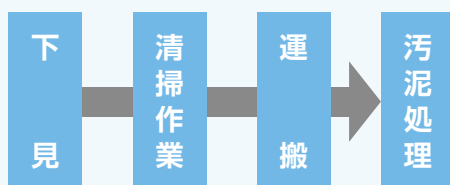
弊社の新サービス「swell」では、施設の状況を確認し、それぞれに適したご提案をいたします。「安全」「安心」を意味する safe の“s”と、「申し分ない」「上手い」を意味する“well”を組み合わせ、『swell』と名付けました。



swell の特徴

特徴 1 ワンストップサービス

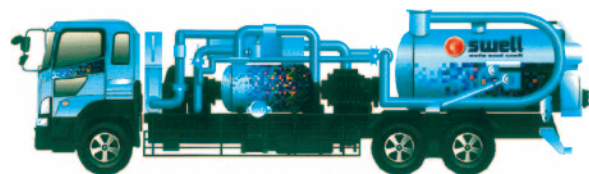
処理施設との連携により清掃だけでなく運搬から最終処理まで、一貫したサービスを提供します。



※清掃作業のみのご依頼にも対応可能

特徴 2 さまざまな特殊車両

超強力吸引車や高圧洗浄車など、さまざまな特殊車両を用い、複雑な場所や流動性の低い汚泥もスムーズに回収します。



※イラストはイメージです。実際の車両とは異なります。

特徴 3 大規模作業対応

複数の運搬業者と連携して、大規模作業の場合でも希望のスケジュールで作業実施が可能です。

特徴 4 安全・確実

見積から作業まで同じ担当者に対応しますので、打合せ通りの安全で確実な作業を実施します。
※作業終了後には報告書にて不具合箇所なども確認いただけます

swell の主なサービス

1. 各種排水処理水槽の洗浄及び堆積汚泥回収



2. 各種タンクの洗浄及び堆積汚泥回収



3. 工場内側溝・暗渠・会所の洗浄及び堆積汚泥回収



4. 配管内洗浄及び調査

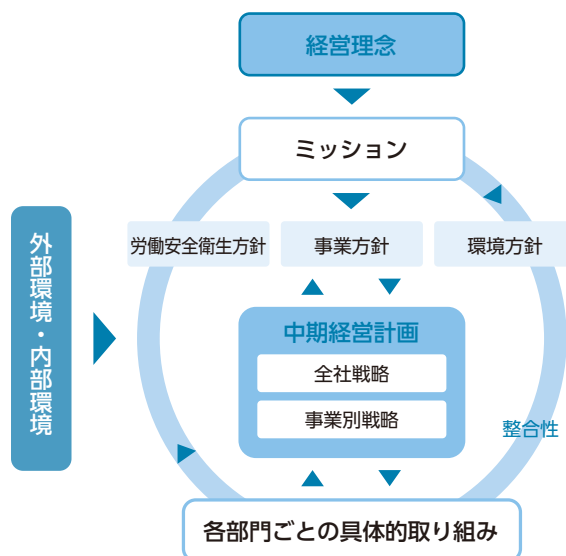


ミッションや経営理念、ビジョンの実現のために中期経営計画を3ケ年ごとに策定し、実行しています。

中期経営計画は、自社を取り巻く外部環境と自社の内部環境を考慮し、また、経営理念やビジョン、各種方針と整合性をとりながら、各部門の取り組みに反映しています。

第五次中期経営計画（2007～2009年度）では、バイオマス燃料化事業の確立やステークホルダーへの説明責任をテーマとし、第六次中期経営計画（2010～2012年度）では、コストパフォーマンスの向上をテーマに、既存サービスの高度化や温室効果ガスの発生抑制に取り組みました。

第七次中期経営計画（2013～2015年度）は、年々高騰しているエネルギーコストを抑制することや、次の成長に向けた新たなサービスの提供を重点テーマとして取り組んで参ります。



第七次中期経営計画の位置づけ

	第五次 (2007～2009年度)	第六次 (2010～2012年度)	第七次 (2013～2015年度)
ビジョン	- 日本で一番遵法性と透明性の高いビジネスを目指します - 廃棄物からエネルギーを創り出す「エネルギーメーカー」を目指します		
テーマ	- バイオマス燃料化事業の確立 - 情報開示、説明責任の強化 - 労働安全衛生活動の推進	- コストパフォーマンスの向上 - 温室効果ガスの排出削減 - 次の成長に向けた新規事業の検討	- 高騰するエネルギーコストへの対応 - 新しいサービスの提供 - 生産性の向上 (営業効率・運搬効率・処理効率)
経営目標	2009年度実績 - 売上高 13億462万円 - 営業利益 6,033万円 - 営業利益率 4.6%	2012年度実績 - 売上高 16億6,989万円 - 営業利益 5,959万円 - 営業利益率 3.5%	2015年度目標 - 売上高 17億7,600万円 - 営業利益 1億4,000万円 - 営業利益率 7.9%

2013年度の主な活動

第七次中期経営計画の初年度である2013年度におこなった活動は以下のとおりです。

- 清掃サービス（swell）、web セミナーの提供開始
- 新卒採用、中途採用による人材確保
- バイオマスボイラーの建設着工
- ホームページの全面改訂

廃棄物の取扱量増加によって、売上高、営業利益ともに前年度を上回りました。

2013年度の概況

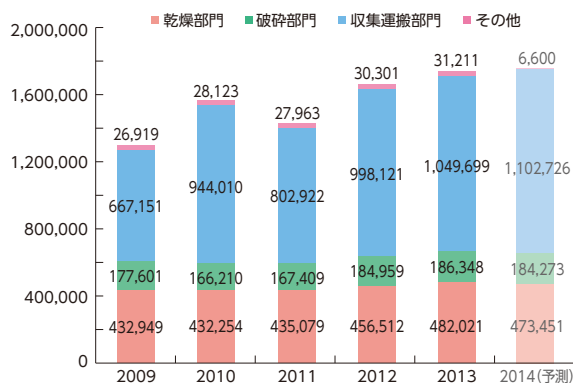
2013年度の売上高は、17億49百万円で前年度に比べて79百万円の増加（4.8％増）となりました。要因は、乾燥施設による処理や収集運搬部門において取扱量が増加したためです。

主要設備である乾燥処理プラントにおいては、稼働率が98％（前年度稼働率96％）と引き続き高い稼働率を維持しております。

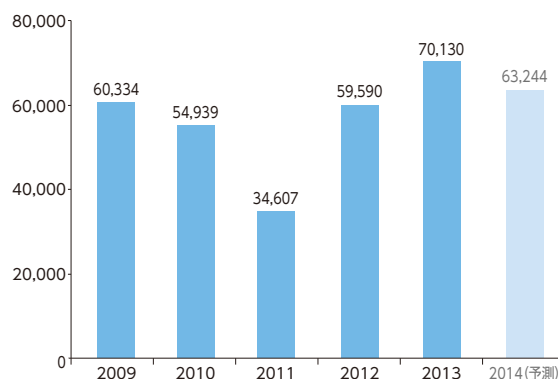
営業利益は、70百万円で前年度に比べて10百万

円の増加（17.7％増）となりました。乾燥処理プラントで使用する都市ガスの単価上昇によるコスト増加を、取扱量（売上高）の増加によりカバーすることができました。

2014年度は、第7次中期経営計画の2年目として、新たなサービスの提供やエネルギーコストへの抜本的な対策となるバイオマスボイラーの建設をおこない、更なる成長を続けて参ります。



▲売上の推移（千円）



▲営業利益の推移（千円）

優良産廃処理業者認定制度への適合

2013年7月に「優良産廃処理業者認定制度^(※1)」への適合認定を受けました。2011年度に優良性評価制度が大幅に改定され、自己資本比率のみが基準を満たしていませんでしたが、2012年度に自己資本を増強したことによって認められました。

詳細な財務情報については、直近3年分の決算書類をインターネット上（産廃情報ネット^(※2)）にて公開しています。

※1 優良産廃処理業者認定制度とは、5つの基準（①実績と遵法性、②事業の透明性、③環境配慮の取組、④電子マニフェスト、⑤財務体質の健全性）すべてに適合する優良な産廃処理業者を、都道府県・政令市が認定する制度です。

※2 産廃情報ネット <http://www.sanpainet.or.jp/>



認定機関のマネジメントシステム規格の要求事項に基づきマネジメントシステムを構築し、適切な運用によって、継続的な改善を図っています。

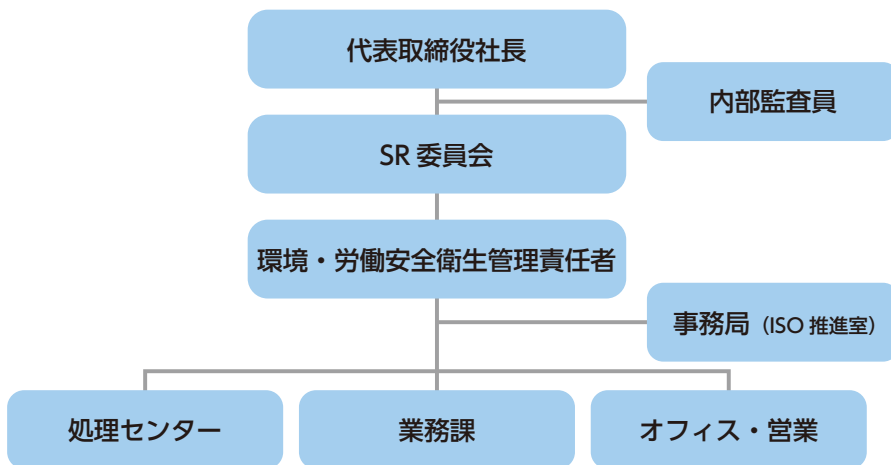
マネジメントシステム体制

弊社の事業が環境に直結しているため、2000年9月に「ISO14001（環境マネジメントシステム）」を認証取得しました。さらに、災害・事故は最大の環境破壊であるという考えのもと、2008年10月に「OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）」とISO14001の統合認証を取得しました。このマネジメントシステムを経営においても運用しています。

1年単位でPDCAサイクルを繰り返し、年度末に次年度の運用のために、環境影響評価とリスクアセスメントを全社員で実施し、目的目標を策定します。全部門共通の目的目標に対し、各部門の目標を策定し、年間プログラム（目標を達成するために、何を、いつ、誰が、どのようにおこなうかという計

画（Plan））を策定します。

この計画に基づいて各部門で運用（Do）し、毎月のSR委員会や内部監査、外部監査でその運用が適切におこなわれているかを確認（Check）します。12月には、1年間の運用の振り返り（マネジメントレビュー）として、方針や目的目標、その他の要素について、変更の必要性を検討し、見直し（Action）をおこないます。このサイクルを通じて、マネジメントシステムの継続的改善に努めています。



▲ ISO14001認証書



▲ OHSAS18001認証書

緊急事態への対応

事故や火災等の緊急事態が発生した際に適切に対処できるように、マネジメントシステムにて手順を定めています。

事故はもちろんのこと、苦情など外部の方から寄せられた情報についても、すべてが管理責任者及び社長へ伝達される体制をとっています。それらの情報は内容や発生原因に応じて、是正処置・予防処置の必要性を判断し、その処置が有効か否かを確認しています。

SR (Social Responsibility) 委員会

マネジメントシステムを運用するうえで、プログラム（計画）の進捗管理とパフォーマンスの確認をおこなうため、毎月SR委員会を開催しています。毎月開催することにより、年度の途中でも目標に対する手段が適切であるかを見直したり、目標が達成できていない原因を明らかにして、改善策を立てることができます。

SR委員会は全役員と管理職が参加し、また、労働組合の代表が従業員の代表として参加しています。この場において全部門の代表者で情報を共有し、それぞれの部門ミーティングにて必要な情報を社員に周知しています。



トップパトロール

マネジメントシステムの運用事項として、社長によるパトロールを毎月1回おこなっています。各部門で定められた手順が正しく運用されているか、効率的な作業を進める上で基本となる整理整頓ができていないか、などをチェックし、記録として残しています。

パトロールは毎月抜き打ちでおこなわれ、2013年度はアドバイスも含めて43件の指摘がありました。



内部監査と外部監査

ISOとOHSASの統合マネジメントシステムを運用する中で、その実効性とパフォーマンスを点検するために内部監査を年に2回、外部監査を年に1回実施しています。

2013年度の監査の結果、指摘を受けた事項の数は以下の表のとおりです。

社内で実施する内部監査では、客観的視点を取り入れるため、2008年より環境審査の専門家である笹徹氏に内部監査員としてメンバーに加わっていただいています。

	内部監査1回目 (2013年6月)	内部監査2回目 (2014年1月)	外部監査 (2013年8月)
重大な不適合	0件	0件	0件
軽微な不適合	0件	1件	0件
観察事項	1件	0件	4件
改善の機会	3件	3件	3件
特筆すべき活動（良い活動）	2件	3件	0件



▲内部監査（2013年6月）



▲内部監査（2014年1月）



▲外部監査（2013年8月）

マネジメントシステムに基づいて、順守すべき環境関連法・労働安全衛生関連法を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正におこなわれているかなどを、年に1度確認しており、2013年度も昨年に引き続き重大な違反はありませんでした。

●環境・労働安全衛生関連法（抜粋）

法 令	主 な 内 容
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と書面の備付け等
大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準
下水道法	排水の下水道放流基準等
騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法	騒音、振動、悪臭基準
環境保全協定	大気・悪臭等の測定方法や回数等
道路運送車両法	自動車の点検及び整備義務
エネルギーの使用の合理化に関する法律	エネルギーの使用状況報告、管理員の選任等
地球温暖化対策の推進に関する法律	温室効果ガスの算定と報告
労働安全衛生法	安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と周知、清掃の実施等
酸素欠乏等防止規則	濃度測定、保護具・避難用具の常備と点検等
消防法	消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検等

●順守評価の実施

弊社に適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、順守評価記録で管理しています。この順守評価記録に従って年1回以上の頻度で法的要求事項が守られているかを評価し、万一、違反が発見された時は是正処置をおこなう手順を確立しています。

弊社に関わる法改正については、当該記録項目を改訂すると共に、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内を展開しています。

法改正等伝達確認シート

項目	名称	内容	確認者	確認日	伝達部署	伝達日
1	大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
2	騒音規制法	騒音基準	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
3	労働安全衛生法	安全確保の措置	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
4	消防法	消防計画の策定	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

▲順守評価記録

法改正等伝達確認シート

項目	名称	内容	確認者	確認日	伝達部署	伝達日
1	大気汚染防止法	NOx、ばいじん等の排出基準	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
2	騒音規制法	騒音基準	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
3	労働安全衛生法	安全確保の措置	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
4	消防法	消防計画の策定	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇

▲法改正等伝達確認シート

マネジメントシステムの目的・目標に対する、2013年度の結果と2014年度の単年度目標は次のとおりです。

	目的 (2013年度～2015年度)	2013年度目標 [PLAN]
環境	原単位あたりの エネルギー使用量削減	●処理・運搬における原単位あたりのエネルギー使用量削減 ＜処理センター＞ ・電気使用量…75.9kWh/t ・都市ガス……67.7m³/t ＜業務課＞ ・燃費……………4.01km/l ＜オフィス＞ ・電気使用量…45,096kWh/ 年 ・燃費……………14.74km/l
	安心・信頼される 廃棄物処理サービスの追及	●お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ ●悪臭・排水処理施設の自主基準値順守 ●お客様への情報発信 ・メールマガジンの発行：12回 ・セミナーの開催：6回
労働安全衛生	パートナーが安心して働ける 職場環境づくり (労働災害・事故ゼロ)	●事故ゼロ ・休業災害：0件 ・不休災害：0件 ・物損事故：7件（2012年度比50%削減） ・パトロールの実施（月1回） ●快適な職場づくり ・社内一斉清掃の実施：3回 ・3Sパトロールの実施（月1回）
社会貢献・ コミュニケーション	すべてのステークホルダーから安心、 信頼されるための継続的な取り組み	●外部評価の実施

Topic 目標を達成するために

■3Sパトロール

2012年12月より副社長による3Sパトロールを毎月1回おこなっています。3S活動が定着しているか、職場が快適に保たれているかなどを確認し、不備があれば該当部門に指摘し是正しています。

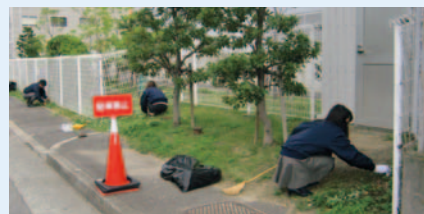


▲社員用玄関
スリッパが乱雑との指摘を受け、下駄箱に入れる向きを統一するように掲示をしました



■清掃の実施

日々の清掃以外にも、2013年度は社内の一斉清掃を年3回（7月・12月・3月）実施しました。また、弊社が位置する鳴尾浜産業団地の自治組織が主催する清掃活動が年2回あり、毎回参加しています。



▶鳴尾浜清掃

2013年度実績 [DO]	結果 [CHECK]	関連 ページ	2014年度目標 [ACTION]
<処理センター> ・電気使用量…77.9kWh/t ・都市ガス…62.3m³/t <業務課> ・燃費…3.92km/l <オフィス> ・電気使用量…48,184kWh/年 ・燃費…15.21km/l	× ○ × × ○	P.26 P.26 P.26 P.29 —	●処理・運搬における原単位あたりのエネルギー使用量削減 <処理センター> ・電気使用量…77.1kWh/t ・都市ガス…61.7m³/t <業務課> ・燃費…3.94km/l <オフィス> ・電気使用量…48,184kWh/年 ・燃費…15.21km/l
●苦情件数：0件 ●自主基準値の順守 ●お客様への情報発信 ・メールマガジンの発行：12回 ・セミナーの開催：5回	○ ○ ○ ×	P.40 P.27、28 P.19 P.38	●お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ ●悪臭・排水処理施設の自主基準値順守 ●お客様への情報発信 ・メールマガジンの発行：12回 ・セミナーの開催：5回 ・ホームページにて無料 web セミナーの公開
●事故ゼロ ・休業災害：1件 ・不休災害：2件 ・物損事故：8件 ・パトロールの実施：月1回実施 ●快適な職場づくり ・社内一斉清掃の実施：3回 ・3S パトロールの実施：月1回実施	× × × ○ ○ ○ ○	P.40 P.40 P.40 P.15 P.17 P.17	●事故ゼロ ・休業災害：0件 ・不休災害：0件 ・物損事故：4件（2012年度比50%削減） ・パトロールの実施（月1回） ●快適な職場づくり ・社内一斉清掃の実施：3回 ・3S パトロールの実施（月1回）
●外部評価の実施 ・第三者委員会開催 ・CSR 報告書の作成 ・報告書賞への応募 ・環境学習の実施	○	P.41 P.19 P.8、44 P.37	●外部評価の継続的な実施

Topic 「環境自主行動計画」の策定

産業廃棄物処理事業者として循環型社会および低炭素社会の実現の一翼を担うため、中長期的な活動指針として「環境自主行動計画」を策定しています。

ポスト京都議定書における中期目標に準拠し、目標の達成に向けて、省エネルギー活動やリサイクルルートの継続開拓などの対策を進めています。

<目標>

1. 温室効果ガス排出量：2020年までに25%削減
 2007年度 実績 4,280 t-CO₂
 2020年度 目標 3,210 t-CO₂
 ※乾燥施設を導入した2007年度を基準年とする。
2. リサイクル率：90%以上を維持
 2007～13年度（平均）94.4%
 ※リサイクル率は、弊社が取り扱う廃棄物のうち再資源化処理への仕向量の割合を表す。
3. 地域社会への貢献：小中学校等への環境学習の実施

社外への情報開示・説明責任

社外のステークホルダーの方々とコミュニケーションを図り、弊社のことをより理解していただくために様々なツールを活用しています。弊社の事業や取り組みをブラッシュアップするためにも、社外への情報発信を積極的におこない説明責任を果たしてまいります。

■ホームページ

「お客様が使いやすいホームページ」をコンセプトに、2014年4月にホームページを全面リニューアルしました。

事業内容や許可情報の掲載はもちろんのこと、産業廃棄物に関する無料のWEBセミナーや、外部専門家によるコラム（毎月1回更新）などを設けて、サービスを充実させました。



▲トップページ

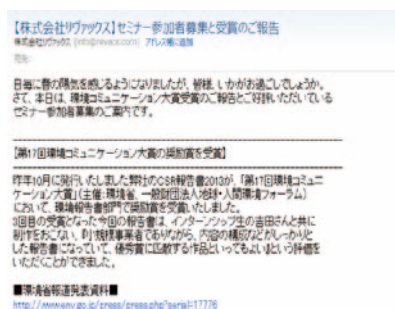


▲無料WEBセミナー

■Eメールニュース

名刺交換をさせていただいた方々に、弊社のCSR活動やセミナー開催等のお知らせを月2回ほど配信しています（約4,700部）。

また、「リヴァックスマガジン」と題して、廃棄物関連の法律や行政の取り組み等の最新情報を月1回配信しています。



■CSR報告書

2002年度より社員の手で毎年報告書を作成し、ステークホルダーの皆さまに配布しています。2002年から2005年は「環境報告書」、2006年は「環境・社会報告書」、2007年から「CSR報告書」と、報告する内容に合わせてタイトルを変更してきました。

昨年発行した「CSR報告書2013」が「第17回環境コミュニケーション大賞」の奨励賞を受賞するなど、過去に6度の賞をいただいています。



■産廃情報ネット

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団にて運用されている産廃情報ネットは、「優良産廃処理業者認定制度」で求められている事業の透明性にかかる基準に適合するように構築されています。

弊社も2005年より情報を公開しており、許可内容や施設の状況、財務諸表などについてご覧いただけます。



産廃情報ネット：http://www.sanpainet.or.jp/

社内での情報共有・説明責任

社外だけでなく社内に対する情報開示・説明責任も重要な社会的責任の一つと考えています。社内にさまざまな情報を公開することにより、社員が会社のビジョンや方向性、経営状況などを正しく理解し、経営課題や業務の改善につなげていく意識が培われています。また、問題提起や改善提案がしやすい風土づくりを目指しています。

■業績報告会

売上高や利益高などを報告する業績報告会（月1回）を、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象におこなっています。

この業績報告会では、全社や各部門の収益状況やその分析などが報告されます。また、一般社員からの質問や意見に対して社長や部門リーダーが回答するなど、一方的な情報提供ではなく、部門や役職を超えた対話がおこなわれます。



■日次ミーティング

作業上のヒューマンエラー防止のため、翌日の作業を確認するミーティングをおこなっています。収集運搬業務を担う業務課、中間処理業務を担う処理センター、営業課、販売管理課の各部門から代表者が出席し、作業の内容や注意事項の確認をしています。

このミーティングでは、各部門での日々の作業や日次収支における問題も取り上げられ、関係部門が協力しながら、問題解決を図る場となっています。



■日々の情報共有

営業課・処理センターの日報および日々の収支（決算）データは、経営層と全スタッフに共有されます。日報にはお客さまからの要望やクレーム、処理施設の稼働状況などが、日次収支には売上やコストの実績・予測などあらゆる情報が記載されています。

日次収支は、1営業日毎に更新され、売上やコストの増加・減少がリアルタイムで把握できます。これらの情報を共有することで、いち早くリスクや問題点を察知でき、解決策や新たな打ち手をとることができます。

廃棄物処理業を適正に運営することが、環境への貢献につながると考えています

廃棄物処理をおこなう企業として事業そのものが、そして法令を順守し適正に処理をすることが環境への取り組みに直結しており、ステークホルダーの安心・信頼につながると考えています。

環境負荷を継続的に低減するために、また、環境に悪影響を与えかねない事故を未然に防止するために、環境マネジメントシステムを活用しており、全社で目標を設定して各部門がプログラムに則って活動をしています。

事業の特性上、地域住民の方や近隣で働く方にも安心していただけるように、脱臭炉やシャッターによる臭気対策はもちろん、ウェブカメラによる処理状況の公開など、さまざまなことを考え取り組んでいます。

ISO14001（環境マネジメントシステム）の認証を取得してから10年以上が経過しました。その間に新しい社員が増え、「なぜマネジメントシステムが必要なのか」「なぜこの取り組みをしているのか」など、根本的なところから教育を再度する必要があると感じています。もう一度活動の意義を全体で共有し、より地に足のついた活動をしていくことが今後の課題です。



取締役経理部 部長
主任内部監査員
篠田 理俊

環境方針

私たちは、廃棄物の再利用、再資源化、処理といった環境分野で事業活動をおこなっていることを認識し、その活動を通じて地球環境の保全並びに循環型社会の構築に貢献します。

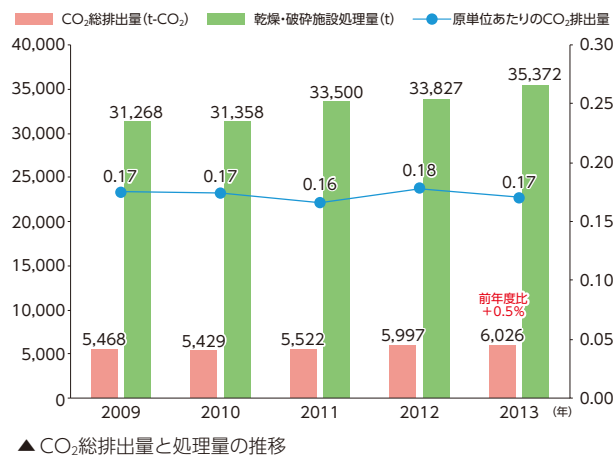
1. 私たちは、社会的責任を自覚するとともに、環境法規制及び私たちが認めたその他の要求事項を遵守し、廃棄物を適正処理します。
2. 私たちは、全ての資源やエネルギーを大切にしたい事業活動に努めます。
3. 私たちは、廃棄物の再利用、再資源化で限りある物質資源の有効利用を図ることを通じて産業界に貢献するとともに、貴重な産業資源である埋立処分地の延命に貢献します。
4. 私たちは、『環境学習都市にしのみや』の企業市民として、地域社会とのパートナーシップの精神に基づいたコミュニケーションを通じ、環境維持に努めます。
5. 私たちは、本方針を理解し、環境マネジメントシステムを構築し、汚染の予防に努めるとともに、目的・目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的に改善を図ります。
6. 環境方針は、弊社で働く又は弊社のために働く全ての人に周知します。また、外部からの要求に応じて開示します。

CO₂排出量の推移

下表は、CO₂総排出量と処理センター（破碎施設・乾燥施設）での廃棄物処理量、そこから算出した原単位あたりのCO₂排出量の過去5年間の推移です。

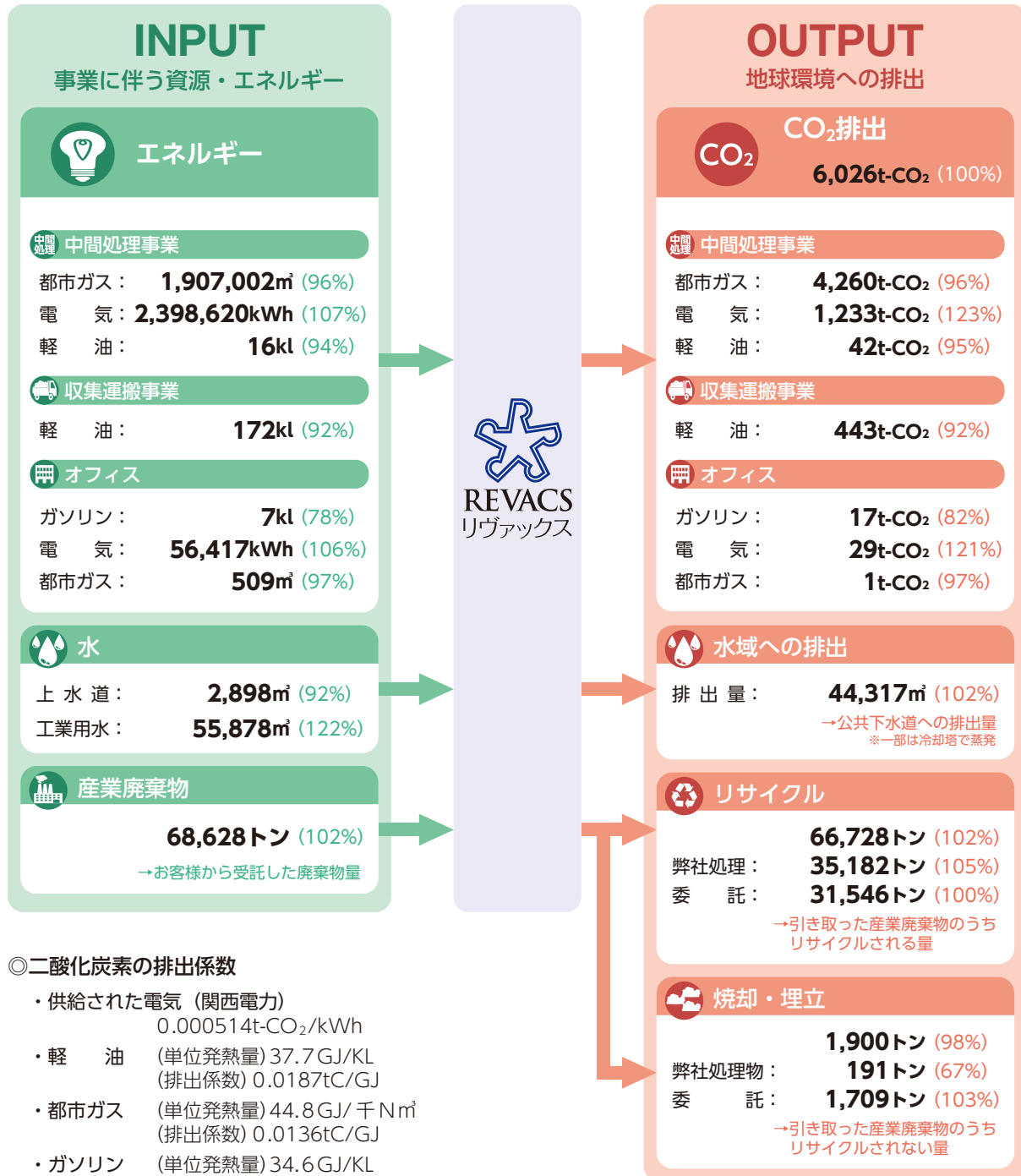
2013年度のCO₂総排出量は6,026t-CO₂（前年比0.5%増）、廃棄物処理量は35,372t（前年比5%増）、原単位あたりのCO₂排出量は0.17t-CO₂（前年比4%減）でした。

廃棄物処理量の増加幅に比べて、CO₂総排出量はわずかな増加に留めることができました。今後も効率的な施設運営を目指し、引き続き温室効果ガスの低減に取り組んでまいります。



2013年度における産業廃棄物の収集運搬・中間処理に伴う資源エネルギーなどの投入量（INPUT）と環境への排出量（OUTPUT）をあらわしています。限りある資源を大切に、INPUTとOUTPUTの両側から資源の有効活用に取り組んでいます。

※（ ）の中の％は2012年度との比較



◎二酸化炭素の排出係数

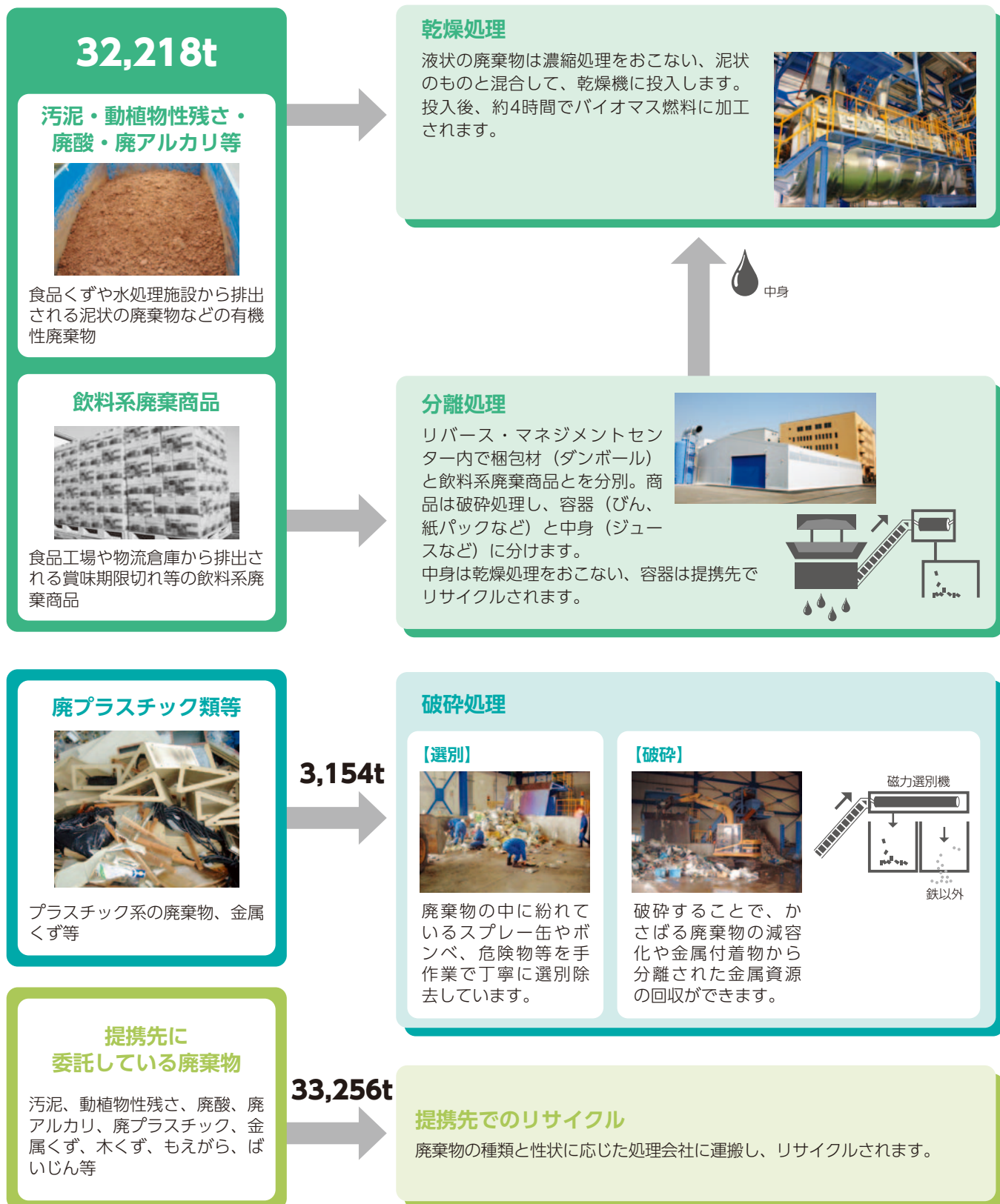
- ・供給された電気（関西電力）
0.000514t-CO₂/kWh
- ・軽 油（単位発熱量）37.7 GJ/KL
（排出係数）0.0187tC/GJ
- ・都市ガス（単位発熱量）44.8 GJ/ 千Nm³
（排出係数）0.0136tC/GJ
- ・ガソリン（単位発熱量）34.6 GJ/KL
（排出係数）0.0183tC/GJ

（出典）・地球温暖化対策の推進に関する法律

- ・（平成25年12月19日環境省報道発表資料）平成24年度の電気事業者ごとの実排出係数・調整後排出係数等の公表について
- ・地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 別表第一（第三条関係）

2013年度に弊社が取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次の図のとおりです。廃棄物の品目や性状にあわせて適切に処理しています。

2013 年度取扱量 合計 68,628t（昨年比 102%）



乾燥処理後のリサイクル 4,806t

バイオマス燃料化 (BSF) 1,933t

製紙会社やセメント会社でボイラー燃料としてリサイクルしています。(熱量: 18.8MJ/kg)



▲バイオマス燃料

肥料原料 2,789t

有機性の汚泥や動植物性残さを肥料や堆肥の原料として利用しています。

サーマルリサイクル (異物分) 84t

廃棄物を焼却し、その熱をエネルギーとして利用しています。

水分蒸発量

25,784t

乾燥工程で蒸発した廃棄物に含まれる水分の量。回収した水分は、排水処理施設で浄化され、下水道へ放流します。

容器
(びん、紙パックなど)

提携先でのリサイクル 36,138t

肥料化 19,101t

有機性の汚泥や動植物性残さを肥料や堆肥として利用しています。



▲汚泥

燃料化 4,352t

廃プラスチックや廃油・廃液などをセメント会社や製紙会社向けの燃料として利用しています。



▲肥料

路盤材 6,334t

無機汚泥を乾燥させて、道路の路盤材として利用しています。

サーマルリサイクル 2,275t

廃棄物を焼却し、その熱をエネルギーとして利用しています。

マテリアルリサイクル 1,545t

原料として再生利用しています。

飼料化 962t

食品の残さなどを家畜の飼料として利用しています。

その他リサイクル 1,569t

提携先での焼却・埋立 1,900t

焼却 825t

埋立 1,075t

廃棄物の種類によって、安定型処分場、管理型処分場でそれぞれ埋め立てています。



▲焼却



▲埋立

第3章 リサイクル率

限りある物質資源の有効活用のため、積極的にリサイクルに取り組んでいます。

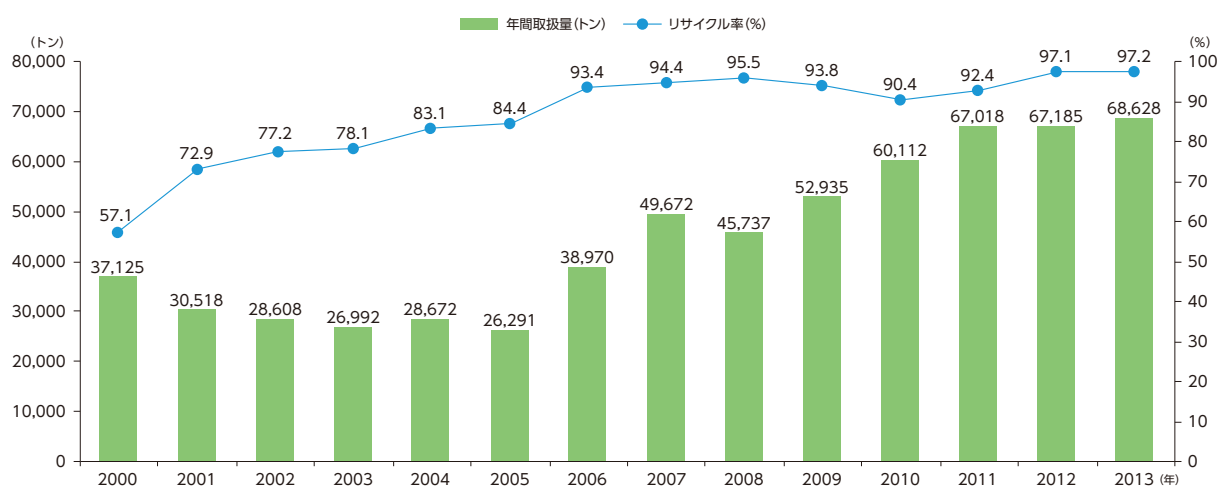
リヴァックスでのリサイクル率

2013年度の弊社での産業廃棄物取扱量とリサイクル率は以下のグラフのとおりです。弊社の破砕施設がリニューアルした2006年、乾燥施設を設置した2007年頃より90%を超えるリサイクル率を保っています。

限りある物質資源の有効活用のため、また、貴重

な産業資源である埋立処分地の延命のため、そして、産業廃棄物のリサイクルに取り組むお客様のご要望にお応えするためにも、自社内での選別や提携先との連携をさらに推進してまいります。

※リサイクル率は、年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表す。

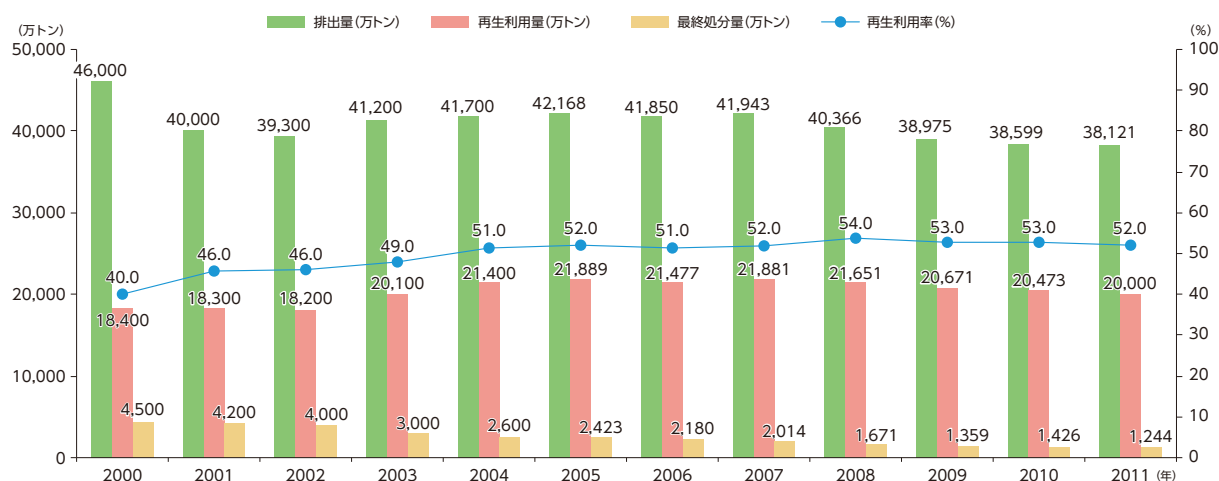


▲弊社の産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率

全国の産業廃棄物排出量

2013年度の産業廃棄物の排出量は前年度に比べて約1%減り、ここ数年減少しています。それに対し、再生利用される量は約2億トンとほぼ横ばいの

状態で推移し、最終処分量は減少傾向にあります。産業界において再生利用の取り組みが進んでいることがわかります。



▲全国の産業廃棄物排出量と再生利用量、最終処分量 (万トン)

出展：環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等について」より加工

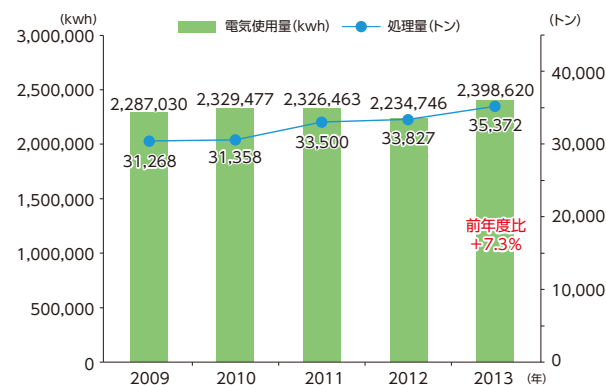
産業廃棄物の収集運搬や処理には多くのエネルギーを消費していることを認識し、いかに少ないエネルギーで事業活動ができるかを日々考えています。

処理センターでのエネルギー使用

処理センター（破砕・乾燥施設）では、電気・工業用水・都市ガスのエネルギーを使用しています。

2013年度の電気使用量は2,398,620kWhでした。デマンド監視装置で需要電力を把握し、適切に管理することにより使用電力の抑制に努めています。処理量の増加に伴い使用量は増加傾向にありますが、1トンの廃棄物を処理するのに利用する量は乾燥施設が稼働した2007年度に比べて約25%削減できました。

その他、2013年度の工場用水使用量は55,878m³、都市ガス使用量は1,907,002m³でした。



▲処理センターの電気使用量と廃棄物処理量

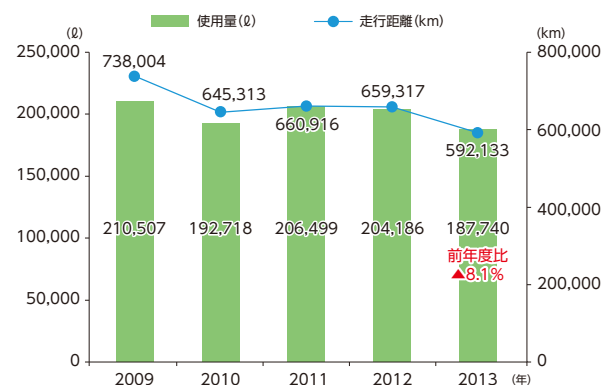


デマンド監視装置▶

車両等でのエネルギー使用

収集運搬で使用する各車両や中間処理作業で利用するフォークリフト、ショベルなどの重機の燃料に軽油を使用しています。

2013年度の軽油使用量の合計は187,740ℓでした。エコドライブや定期点検を実施し、燃費効率の向上に取り組んでいます。



▲車両と重機の軽油使用量と総走行距離

廃棄物の漏洩・流出防止対策

破砕棟の床面は処理をする廃棄物が漏洩しないように、すべてコンクリートの上に鉄板を敷いています。また、天災などにより廃棄物が流出するおそれが生じた場合に備えて、下水排水出口を塞ぐ土嚢を常設しています。

含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には、運搬中などに漏洩しないようゴムパッキンのついた水密コンテナを使用しています。漏洩を未然に防ぐため、ゴムパッキン等の消耗品は定期的に取り換えています。



環境負荷低減のために、様々な対策を講じ、法律や環境保全協定に基づいて、悪臭、水質、大気汚染物質の測定を定期的におこなっています。2013年度も昨年度に引き続きすべての測定値が規制値内でした。

悪臭防止対策

取り扱う廃棄物からの悪臭を防止する対策として、各所でその対策を講じています。

破砕施設には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置し、汚泥や動植物性残さの保管ヤードにはシャッターを取り付けて、廃棄物の搬出入時以外は閉めるようにしています。乾燥施設には、高濃度の臭気を燃焼させる脱臭炉と低濃度の臭気を薬剤で中和させる薬液洗浄装置を設置し、臭気を処理しています。

西宮市との環境保全協定に基づきおこなっている臭気測定の結果は以下のとおり、すべて規制値内でした。



▲脱臭装置



▲脱臭炉



▲薬液洗浄装置



▲シャッター付保管ヤード

●臭気測定結果（2013年10月15日：敷地境界4地点で測定）

悪臭物質名	規制基準	東側	西側	北側	南側
アンモニア	1	0.08	0.07	<0.05	0.07
メチルメルカプタン	0.002	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化水素	0.02	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
硫化メチル	0.01	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
二硫化メチル	0.009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
トリメチルアミン	0.005	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
アセトアルデヒド	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
プロピオンアルデヒド	0.05	<0.004	<0.004	<0.004	<0.004
ノルマルブチルアルデヒド	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソブチルアルデヒド	0.02	<0.002	<0.002	<0.002	<0.002
ノルマルパレルアルデヒド	0.009	<0.0008	<0.0008	<0.0008	<0.0008
イソパレルアルデヒド	0.003	<0.0004	<0.0004	<0.0004	<0.0004
イソブタノール	0.9	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
酢酸エチル	3	<0.1	<0.1	<0.1	<0.1
メチルイソブチルケトン	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
トルエン	10	<0.5	<0.5	<0.5	<0.5
スチレン	0.4	<0.01	<0.01	<0.01	<0.01
キシレン	1	<0.05	<0.05	<0.05	<0.05
プロピオン酸	0.03	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル酪酸	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
ノルマル吉草酸	0.0009	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
イソ吉草酸	0.001	<0.0005	<0.0005	<0.0005	<0.0005
臭気濃度	30	<10	<10	<10	<10

水質汚濁防止対策

処理センターの処理工程から発生した排水は、全量を水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。排水の異常を防ぐために、連続監視式の pH 計を設置し、排水処理施設の水質の分析を毎週おこない、月に1度の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然の予防に努めています。2013年度の結果は以下のとおり、すべて規制値内でした。

●重金属等の水質検査結果（2013年5月17日採水）

測定項目	単位	規制値	結果
水温	℃	45以下	20.4
pH	—	5.0～9.0	6.9
カドミウム	mg/L	0.03以下	<0.005
シアン	mg/L	0.3以下	<0.1
鉛	mg/L	0.1以下	<0.01
六価クロム	mg/L	0.1以下	<0.02
ひ素	mg/L	0.05以下	<0.01
総水銀	mg/L	0.005以下	<0.0005
総クロム	mg/L	2以下	<0.02
銅	mg/L	3以下	<0.01
亜鉛	mg/L	2以下	0.04
溶解性鉄	mg/L	10以下	0.9
溶解性マンガン	mg/L	10以下	<0.1
動植物油含有量	mg/L	30以下	<1
鉱物油含有量	mg/L	5以下	2



▲排水処理施設



▲連続監視式 pH 計

●西宮市による水質測定結果（2013年度）

	基準値	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
水温	—	16	21	27	29	33	28	26	21	12	11	9.4	17
pH	5.0～9.0	7.5	7.7	6.9	7.4	7.1	6.4	6.8	6.8	6.4	7.2	6.5	7.0
BOD	600mg/L 以下	13	3	14	1	6	26	8	27	400	27	19	540
SS	600mg/L 以下	2	4	6	5	2	3	1	2	71	1	1	280

大気汚染防止対策

西宮市との環境保全協定によって、1年に2回、脱臭炉とボイラーの煙突から排出される大気汚染物質の測定をおこなっています。2013年度の結果は以下のとおり、規制値を順守することができました。

●大気汚染物質測定結果（2013年10月15日、2014年3月13日実施）

測定項目	法規制値		単位	1回目	2回目	年間
窒素酸化物（NOx）	排出基準	150	ppm	33	49	41
	時間あたり排出量	0.42	Nm ³	0.23	0.33	0.27
	年間排出量	6.2	トン	3.3	4.9	4.0
ばいじん	排出基準	0.05	g/m ³ N	<0.001	<0.001	<0.001

オフィスでも環境目標を設定し、意識して省エネルギーや廃棄物の削減に取り組んでいます。

オフィスでの電気使用

オフィス部門では、昼休みや常に使用していない場所の消灯、空調の温度管理（冷房28度以上、暖房22度以下）などによる省エネルギー活動をしています。

2013年度のオフィスでの電気使用量は48,184 kWhで、前年度より増加しました。売上の増大に伴い労働時間が増え、電気やエアコンの利用時間が長くなったためと考えています。



▲オフィスでの電気使用量推移

オフィスからの廃棄物

事務作業による廃棄物はリサイクル可能なものとそうではないものを基準に8種類に分別し、リサイクルを推進しています。

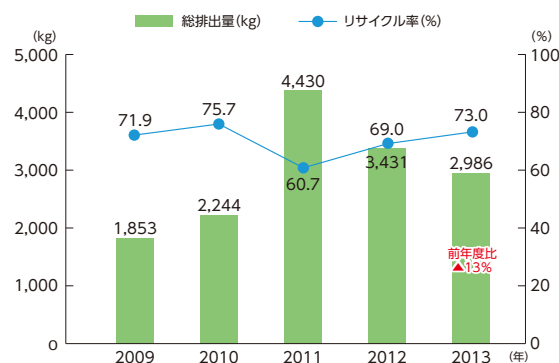
2013年度のオフィスからの総排出量は2,986kg、リサイクル率は73.0%でした。

●リサイクル可能なもの

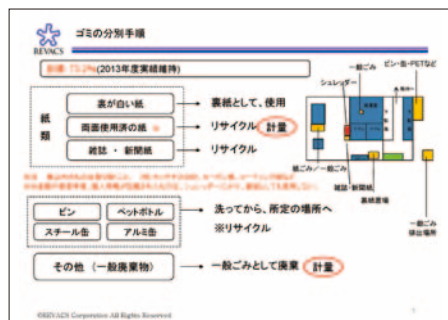
紙類（両面印刷済みのOA用紙、段ボール、新聞、雑誌）、ビン、缶（アルミ・スチール）、ペットボトル

●リサイクル不可能なもの

コーティングされた紙、プラスチック類



▲オフィスからの総排出量とリサイクル率



▲ごみの分別表



▲分別用ごみ箱

社員に向けて「安全が最優先である」ことを常に発信しています

リヴァックスでは、OHSAS18001（労働安全衛生マネジメントシステム）の認証を取得し、そのシステムの中で安全を確保する仕組みを作っています。具体的には、年に1回リスクアセスメントを実施、定量的に評価し、危険度の高いリスクはその解消に向けて施策を実行しています。また、ヒヤリハット及びKY活動を積極的に取り組み、事故の未然防止に努めています。

2011年度からは、きれいな職場を保つことが安全につながるのとの考えのもと、3S活動（整理・整頓・清掃）にも全社で取り組んでいます。その他にも、資格の取得を推進し、その過程で得た知識を部門社員に共有する場や、専門教育、OJTリーダーを通じて安全を守るための手段を学ぶ場を設けています。

「幸せ」や「夢」の実現に向けた一つの手段として働いている場所で事故があってはならないとの想いから、「安全が最優先」ということを常に発信し続け、社員自身もその意識をしっかりと持って、全員が安心して働ける仕組みを強化していきたいと考えています。



取締役副社長
兼処理センター長
赤澤 正人

労働安全衛生方針

私たちは「パートナーへの貢献」「お客様への貢献」「社会への貢献」の経営理念のもと、弊社で働くすべての人が、安全と健康を通じて豊かな人生を享受できる事が企業の社会的責任であると共に、労働災害や事故が「最も大きな環境破壊」であることを認識し、労働安全衛生活動を推進します。

1. 私たちは、労働安全衛生に関わる法令及び私たちが認めたお客様、社会及び公的機関などの要求事項を遵守します。
2. 私たちは、私たちの責任において行う全ての事業活動での安全の確保に努めます。
3. 私たちは、廃棄物処理業が潜在的なリスクが大きい事業活動であることを認識し、収集運搬時の安全の確保、処理センターや依頼先などの作業での無事故・無災害に努めます。
4. 私たちは、お客様、社会及び公的機関などとのパートナーシップの精神に基づいたコミュニケーションを通じ、安心及び信頼の確保、維持・向上に努めます。
5. 私たちは、本方針を理解し、事業活動全般に係わる危険源を認識し労働災害や事故の未然防止及

び疾病予防を図るため、労働安全衛生マネジメントシステムを構築し、目的・目標を定め、定期的に見直しを行い、継続的に改善を図ります。

6. 本方針は、弊社で働く又は弊社のために働くすべての人に周知します。また、外部からの要求に応じて開示します。

リスクアセスメントとヒヤリハット

労働安全衛生のマネジメントシステムにおいて、1年に1度、全社員で全工程におけるリスクアセスメントをおこなっています。2013年度は346件の危険源抽出をおこない、リスクポイントが高い危険源を42件に特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する（例：安全柵の設置）等ハード面の対策、危険の見える化、そして手順の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策をとっています。

また、事故にはならなかったものの、ヒヤッとしたことやハットしたことを抽出するヒヤリハットも常時おこなっており、2013年度は92件のヒヤリハットを抽出し、リスクアセスメントを実施しました。

環境保全や事故・災害防止のためには社員一人ひとりの意識が大切です。意識の浸透・定着のために教育や訓練による啓発に取り組んでいます。

一般教育・専門教育

ISO14001とOHSAS18001のマネジメントシステムに基づいて、定期的に教育・訓練をおこなっています。

一般教育としては、年度初めに環境方針・労働安全衛生方針や全社の目的・目標、関連する法律について全パートナーを対象に教育しています。

専門教育としては、部門ごとに環境影響、リスクならびにリスク管理について理解し、作業手順の確認をしています。また、資格保有が必要な業務や高いリスク管理能力が求められる業務に従事する部門を中心に専門教育としてさまざまなプログラムを策定し、資格の取得を推進しています。



●2013年度におこなった主な教育・訓練

内 容	種類	部門	実施月
保護具着用訓練	社 内	乾燥部門	毎月
酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習	社 外	業務部門	3月
運行管理者基礎講習	社 外	業務部門	7月
整備管理者講習	社 外	業務部門	1月
2級ボイラー技士	社 外	乾燥部門	7月・9月
小型車両系建設機械特別教育	社 外	乾燥部門	6月・9月
小型車両系建設機械運転技能講習	社 外	乾燥部門	10月
小型移動式クレーン技能講習	社 外	破砕部門	8月

緊急事態対応訓練

弊社では火災や車両事故などの緊急事態を想定した対応手順を定め、その訓練を全部門で年1回おこなっています。

2013年度は、溶接作業により火災が発生した想定で、消防署への通報訓練や避難訓練、消火訓練を実施しました。また、業務課では廃棄物の漏洩及び酸素欠乏を想定した訓練をおこないました。



酸素欠乏及び硫化水素中毒防止訓練

有機性の産業廃棄物から発生する硫化水素等による中毒や、汚泥貯留槽に入るときに起こる酸素欠乏は大きな危険源です。貯留槽のメンテナンスをおこなう処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練をしています。

また、お客様先で貯留槽などの清掃をする業務課では、酸素欠乏・硫化水素危険作業主任者技能講習を順次受講しています。

各部門で労働安全に対する知識向上に努めています。



社員が前向きに働ける職場環境を作っていきたい

人事制度は、社内外の環境の変化に反応し、その時々状況に合ったものに变化させていくことが大切だと考えています。弊社では2006年に幅広い社員の意見を取り入れ、時間をかけて大きく制度を改訂し、数度の見直しを経て今に至っています。

制度設計と同様に適切かつ柔軟に制度を運用することも非常に重要と考え、毎月のSR委員会や年に2回おこなう考課面談で社員の意見・要望を聞き、社員が意欲をもって働ける環境づくりに努めています。

弊社には産前産後・育児休業や自己啓発支援などさまざまな制度が揃っています。仕事とプライベートのメリハリをつけて、使える制度はどんどん活用してほしいと思います。しかし、社員の人数が限られていることもあり、残念ながら活用されていない制度もあるのが現状です。

各種制度がより活用され、社員が前向きに働ける職場作りを目指してまいります。

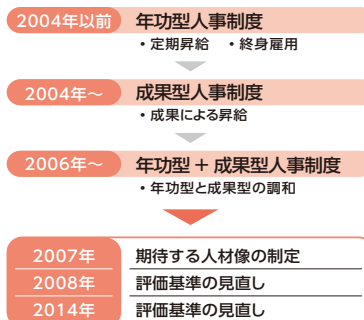


取締役経営企画室 室長

伊藤 隆

人事制度

経営理念の一つである「パートナーへの貢献」の実現を目指して、パートナーが安心して働きながら、思う存分実力を発揮することができ、かつチャレンジが評価される人事制度を目指しています。人事制度も経営計画と同様に外部環境や内部環境の変化に応じて、数度の改定をおこないブラッシュアップを図っています。



ワーク・ライフ・バランス

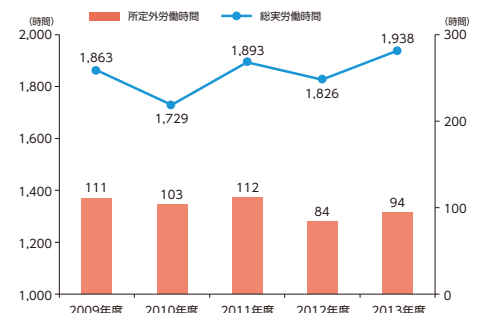
リヴァックスでは、性別や年齢による分け隔てのない採用や管理職・役員への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりをめざしています。

パートナーのワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現が重要テーマととらえ、出産や子育て、家族の看護・介護などのライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。

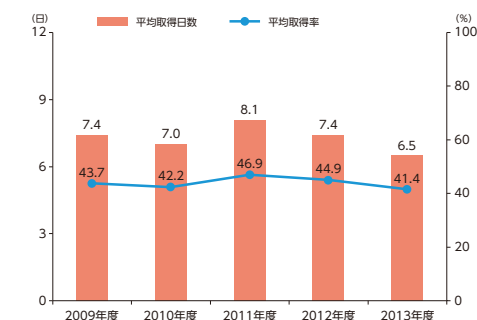
休暇については、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいように、半日単位で有給休暇を取得できるようにしています。また、配偶者の出産時には3日間の特別休暇制度を設けています。

2013年度は売上の増大に伴い仕事量が増えたこと、さらには前年より離職者が多かったこともあり、1人あたりの労働時間が増加しました。また、有給休暇の取得率は前年より低下しました。

※外国人及び障害者の雇用はおこなっておりません。



▲常用労働者の1人平均年間労働時間の推移



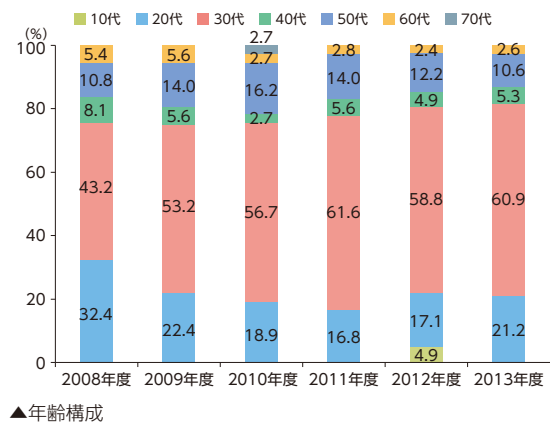
▲有給休暇取得状況

第4章

人事制度

●人事関連データ

	2008 年度	2009 年度	2010 年度	2011 年度	2012 年度	2013 年度
従業員数 (人)	38	35	37	37	37	38
女性従業員比率 (%)	16.0	17.1	14.8	14.8	19.1	18.4
女性役職者比率 (%)	25.0	25.0	20.0	18.8	23.5	21.4
平均年齢 (歳)	33.1	33.5	37.8	37.1	36.1	35.2
平均勤続年数 (年)	8.3	8.1	8.4	9.2	8.9	8.8
離職率 (%)	5.1	10.8	8.3	15.8	2.7	12.8



主な制度

	制度の内容	2013年度利用者
産前産後休業制度	出産前及び出産後において一定の期間で休業が可能です	該当者なし
育児休業制度	育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで（最長1歳6ヶ月まで）休業が可能です	0名
介護休業制度	介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です	0名
短時間勤務制度	3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です	0名
定年退職者再雇用制度	60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として雇用します	0名 (該当者1名のうち)
自己啓発支援制度	会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します	0名
ボランティア休暇制度	ボランティア活動に従事する社員に2日以内の特別休暇を付与します	0名
慶弔見舞金制度	結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります	延12名

健康診断の実施

すべての社員を対象に年に1回（深夜勤務のある社員は半年に1回）健康診断を実施しています。健康診断の結果がC～E判定の社員については、医師に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受けています。これらの情報を提供し社員の健康管理に対する意識を高めると共に、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなど、健康支援に努めています。

健全な労使関係

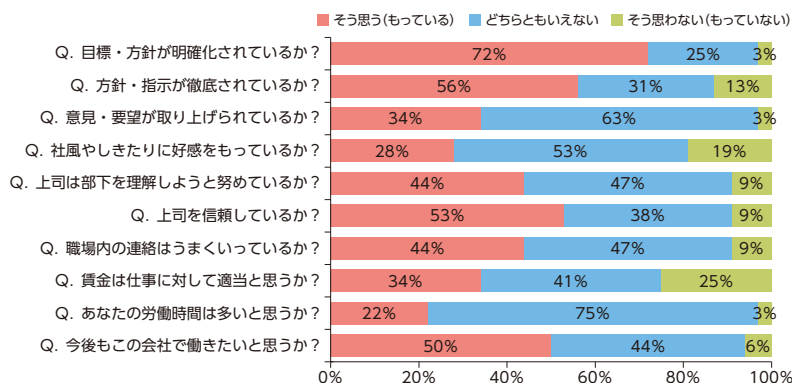
株式会社リヴァックス労働組合は、弊社の管理職（課長職相当）と労務・経理担当者以外の従業員で構成されており、ユニオンショップ制を採用しています。労働組合と会社経営側の労使交渉は適宜おこない、より良い労働環境に近づくよう協力して取り組んでいます。

また、毎月のSR委員会にて状況報告や意見交換をすることにより、労使一体となった環境・労働安全衛生マネジメントシステムの運用が形成されています。

会社全体の人材力向上を目指し、人材の確保・育成ならびに生き生きと働ける職場づくりに取り組んでいます。

従業員意識調査の実施

2013年8月、公益財団法人日本生産性本部に委託し、従業員意識調査を実施しました。全従業員から無記名でアンケートを回収し、さらに15名に職場風土や労働時間など7項目について聞き取り調査をおこないました。主なアンケート結果は以下の通りです。



いずれの質問においても他社平均と比較して概ね肯定意見の割合が高く、また従業員は仕事に対して高い目的意識をもっており、調査機関からは「会社としての管理体制が機能している」との評価を受けました。一方、明らかになった課題については施策を考え、環境の整備に取り組んでまいります。

採用活動

2013年度は即戦力の採用として中途採用をおこない、新たに6名の仲間を迎え入れました。新規事業に向けた人員増強や欠員補充として、技術職3名および事務職3名が入社しました。

また、2014年度入社の新卒採用では、営業職および事務職を募集し、営業職2名、事務職1名が2014年4月に入社しました。



▲リヴァックスグループ新入社員歓迎会

人材育成

入社時には廃棄物の基礎知識やISO・OHSASの取り組みなどについて学ぶ社内研修制度を設け、その他にも職務や役職に応じて社外研修や講習会の参加を推進しています。

2014年はリヴァックスグループにおいて、グループコーチングや、人事制度の改定に伴う役職者を対象とした考課者訓練をおこなうなど、人材育成に一層力を注いでいます。



▲考課者訓練

MVP社員・永年勤続者表彰

会社のために力を尽くしてくれた社員を半期毎に選出し、「MVP社員」として表彰しています。人事評価制度では評価しきれない面を尊重する場として、社員のモチベーション向上にもつながっています。2013年度は全員が売上・営業利益目標の達成に貢献したとして、選出はおこないませんでした。

また、勤続10年ごとに、これまでの功績を称え、永年勤続者表彰をおこなっています。2013年度は勤続10年として1名が表彰されました。

リヴァックスでは、真面目に頑張る人が安心して働ける会社、チャレンジする人を応援する会社を目指し、さまざまな制度を整備しています。

ここではパートナーの視点から、働きがいや自分自身の課題などについて語り合いました。



左
経理課 岩代 真悟
(2013年3月入社)

左から2番目
営業一課 松尾 仁美
(2014年4月入社)

中央
販売管理課 榮山 千恵
(2013年8月入社)

右から2番目
営業一課 高橋 睦深
(2014年3月入社)

右
業務課 森谷 幸雄
(2013年7月入社)

みなさんの仕事内容、 現在の働きがいや会社の魅力について

松尾：私は、ホームページの更新や販売促進など営業活動を側面からサポートする部門に所属しています。前職で経験したことがない仕事も多々あり、日々勉強という状態ですが、入社して感じたことは、中小規模の会社なので上司との距離が近く、相談しやすい環境にあるので、仕事がしやすいという点ですね。

榮山：私は、入社当初は営業スタッフとして、外勤をされている営業担当者のサポートをしていましたが、現在は、販売管理課といって廃棄物の計量業務やマニフェスト伝票の管理、請求書の発行などの業務に携わっています。

1年ほど前に入社しましたが、入社時期に関係なく、いろいろな仕事を任せられる会社なので、正直、最初は不安なところもありました。しかし、それは、自発的に物事を考えることが日常になり、さらには個人のスキルアップに繋がっていくと思っています。大変かもしれませんが、リヴァックスはどちらかという少数精鋭型の会社であり、その辺りが魅力と感じています。

岩代：私は、前職で経理や総務の仕事をしていまして、その経験を生かしたいと思い、リヴァックスに入社し、経理課に所属しています。今年（平成26年度）で入社2年目になるのですが、4月からISO・OHSASというマネジメントシステムの運営事務局の仕事を兼務するようになりました。経理の仕事に就いて1年が経ち年度決算までの一

連の経理業務をはじめて経験したところで、すぐに兼務になりましたので覚えることは多いですが、やりがいを感じています。ISO・OHSASの仕事は、はじめてまだ5ヶ月ほどですが、上司やたくさんの方がフォローしてくれるので、なんとかやっています。

高橋：私は、営業課に所属していて、営業スタッフとして営業担当者の日々の活動をサポートする業務に携わっています。リヴァックスは、それほど大きな規模の会社ではないので、先輩や上司にフランクに相談しやすい環境はあるかなと感じています。皆さんがおっしゃるように入社してすぐに「もうこんなことまで任せてもらえるの」という仕事を任せていただいたり、その分自分の責任でやらないといけないんですけど、それが働き甲斐になっているのかなと思います。

森谷：私は、業務課に所属し、廃棄物をお客様の事業場から処理先まで運搬する業務に就いています。入社から1年が過ぎましたが、常に安全運転を心がけています。

仕事をしていて大変なことはありますか？

榮山：大変と感じるところは、慣れてくるとそうでもないのですが、仕事を任せてもらえる分、「自分で考える」ことが必要とされるので、入社当初は少し戸惑うこともありました。

松尾：自分のやりたいことを認めてくれる反面、自分で考えるという責任も求められますよね。私は、上司が経営層ということで入社当初は驚きまし

たが、今ではだいが慣れました。日々、経営層と接することは緊張しますが、自分の意見がダイレクトに経営層に伝わるという面では非常にありがたいです。

高橋：今、感じることは、中途採用者や新卒採用者が増えて、急に人数が増えたこともあり、仕事の分量に個人差がちょっとあるのかなということですね。あとは、新入社員へのフォロー体制でしょうか。これは私も含めて課全体で見直しや強化していければと感じる部分です。

森谷：個人差があるのはそうかもしれませんね。



岩代：人を増やせば当然コストもかかってきますし、単純に増やせば良いというわけでもないで難しい問題ですね。個人としては、まずは、時間の使い方や、優先順位をしっかりとつけて効率的に仕事をしていきたいです。

今後の目標を教えてください

高橋：私は、仕事とプライベートにメリハリをつけた性格なので、そうできるよう工夫や対応できる仕事を増やしていきたいです。営業担当者しか判断できないことも、私たちのようなスタッフがレベルアップすることで営業担当者の負担を減らすこともできますし、スタッフ個人々々が対応している仕事も平準化することで今まで以上に効率を上げることもできると思います。新入社員へのフォローも今後は強化していく必要があるかなと。

あとは、できれば長く働きたいと思っていますので、結婚や出産しても安心して仕事を続けていける職場環境を自分たちからももっとつくっていったらと思います。

会社から与えられるだけでなく、自分たちから

も何かしらの働きかけをしていきたいですね。

森谷：私は、2014年1月から新規事業として取り組みはじめた「swell」の清掃サービスにもっともっと携わって、将来は作業員のリーダー的存在になれるよう頑張っていきたいです。

岩代：私は、経理の立場からすると、お金や数字を扱う仕事がほとんどですので、ミスがないようこれからも正確な仕事を心がけていきたいです。あとISO・OHSASの仕事もまだ経験していない仕事もたくさんあると思うので、一つずつ着実に覚えていきたいです。

また、リヴァックスは、新たな取り組みを始めるのも早いですし、見込みが薄いと思うとやめるのも早い、そしてまた新たな取り組みを始める、というスピードの速い会社です。その意思決定の早さが中小企業の最大の強みでもあると思うのですが、とにかくスピード感のある会社ですので、そのスピードについていけるように頑張りたいです。

榮山：私は、廃棄物を持ち込まれるお客様や提携先の方と日々接していますが、いろいろなことに取り組んでいる会社なので、もっとリヴァックスのことをたくさんの方に知っていただきたいと思っています。また、自分自身も会社の取り組みや方針をしっかり理解し、それらを日々の仕事に繋げてスキルアップしつつ、会社のスピードについていきたいです。

松尾：人それぞれ「働くこと」に対しての考え方は違うと思いますが、フランクに話をしやすい会社ですので、自分たちの考えをもっと経営層に伝えて、いろんな人たちが前向きに働けるよう部門の垣根なく協力し合っていきたいですね。個人としては、販売促進という側面から営業部門のサポートをおこない、会社の利益に貢献していきたいです。



企業市民として、地域社会との交流や未来の消費者への学習支援など幅広い活動をしています。

施設見学の受け入れ

弊社のお客様に限らず、お取引のないステークホルダーの方々にも広く施設を公開しています。2013年度は、474名72団体（うち取引外7団体）の方が見学に来られました。

■ JICA 研修

独立行政法人国際協力機構関西国際センター（JICA 関西）では、各国の廃棄物に関わる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修を実施しています。

2013年9月には中南米4カ国から13名の方が、11月にはアジア9カ国から10名の方が来社されました。日本における廃棄物の概念や弊社の事業モデルを紹介し、処理施設をご案内しました。それに対して弊社で製造するバイオマス燃料の利用用途や環境学習、CSR 報告書の発行などについて質問をいただきました。

この研修で学んだことをそれぞれの国で活かしていただければうれしいです。



■ 消費者教育

弊社では、未来の消費者に対する教育と位置付けて、近隣地域の小中学校へ環境教育をおこなっています。2008年度からは、関西大学第一中学校2年生約250名へ環境に配慮した消費者行動につながる意識づけをテーマに、環境学習を実施しています。

6月の事前学習では、コカ・コーラウエスト株式会社 CSR 統括部 環境・広報部の岸野氏から、飲料容器のリサイクルや食品ロスなどについて、会社で

の取り組みとともに説明いただきました。続いて、弊社の谷口から「賞味期限の切れた飲み物の行方」と題して、飲料商品のリサイクル事業や、自分たちでできる地球にやさしい行動の一例を紹介しました。

7月には、事前学習の内容を受けて、弊社の処理施設を工程ごとに見学いただきました。実際にリサイクルをしている現場を見て、設備や各作業について説明を聞くことにより、さらに理解を深めていただけたと思います。



▲事前学習



▲施設見学

各種アンケートへの回答

お客様や管轄行政などから環境や労働安全衛生に関するアンケートをはじめ、さまざまなご依頼をいただきます。これらは、外部からの受入情報として、紛失や回答漏れがないように「コミュニケーション記録」として記録しています。

2013年度は56件のご依頼のうち、回答が必要と判断された23件にお答えしました。このようなご依頼に対応することは、マネジメントシステムの要求事項であるコミュニケーションという観点だけでなく、ステークホルダーの方からのご要望にお応えする手段としても意義があると考えています。

セミナーの開催

お客様からお問い合わせをいただくことの多い、廃棄物処理委託契約やマニフェストの運用・管理、各種報告書の記載方法などをテーマに、廃棄物管理に関わる担当者様を対象としたセミナーを開催しました。

社外から講師をお招きしたセミナーには多数の方がお越しくださり、参加された方からは、「とても参考になった」「排出事業者としてのコンプライアンスを意識していきたい」といった感想をいただきました。

弊社では今後も、お客様の利益に貢献するという視点を常に持ち、有益なサービスと情報の提供に努めてまいります。

開催日	セミナー名	テーマ・内容
2013年 5月17日	第3回 廃棄物管理 実務者セミナー	食品リサイクル法の定期報告 の必要性とポイント 講師：農林水産省 近畿農政局 食品リサイクル担当
2013年 6月13日・ 14日	第2回 産業廃棄物 基礎セミナー	「産業廃棄物とは、マニフェ スト、契約書、罰則等について」 講師：株式会社リヴァックス 経営企画室室長 伊藤 隆
2013年 11月13日	第4回 廃棄物管理 実務者セミナー	「廃棄物処理法とリサイクル。 0円回収の是非を考える」 講師：BUN 環境課題研修事務所 主宰 長岡 文明 氏
2013年 11月22日	第3回 産業廃棄物 基礎セミナー	「産業廃棄物とは、マニフェ スト、契約書、罰則等について」 講師：株式会社リヴァックス 経営企画室室長 伊藤 隆
2014年 3月7日	第4回 産業廃棄物 基礎セミナー	「産業廃棄物とは、マニフェ スト、契約書、罰則等について」 講師：株式会社リヴァックス 経営企画室室長 伊藤 隆



▲第4回廃棄物管理実務者セミナー

展示会の出展

弊社の廃棄物処理事業やCSR活動について、より多くの方に知っていただきたいと、2013年は以下の展示会に出展しました。有機性廃棄物のリサイクルをはじめ、廃棄物管理業務の支援サービス、環境保全や地域交流の取り組みをパネル展示し紹介しました。

期間	名称
2013年5月29日～31日	中小企業総合展2013 in Kansai
2013年7月30日～8月2日	下水道展'13東京
2013年12月12日～14日	エコプロダクツ2013



▲下水道展'13東京

甲山農地プロジェクト

弊社では、食品製造・加工業のお客様が多いため、動植物由来の廃棄物を取り扱うことが多く、また、年間約2万トンの廃棄物を堆肥にリサイクルしていることから、食はもちろんのこと、その基になる農業について学び体験する場を提供することも、社会的責任の一つと考えています。そうしたことから、NPO 法人こども環境活動支援協会（LEAF）が主催する「甲山農地プロジェクト」に、スポンサーとして参加しています。



▲甲山農業塾

お客様のご要望にこたえ、また透明性の高い事業にするために、さまざまな対策を実施しています。

ウェブカメラの設置

弊社施設への廃棄物の搬入や処理状況がリアルタイムで確認できるように、施設内にウェブカメラを設置し、ホームページ上でその模様を公開しています。

ウェブカメラの設置箇所は4箇所あり、それぞれ、①廃棄物が弊社へ搬入される様子がわかるところ、②破砕施設の全景、③破砕機の投入口付近[※]、④乾燥施設の搬入ヤードとなっています。

いつでもどこからでも、処理の様子が確認できるということで、お客様だけでなく近隣の方々からもご好評をいただいています。

※③のカメラは、お客様情報を保護するため、廃棄物を排出されたお客様だけに公開できるよう、パスワードを設定しています。



▲①廃棄物の搬入



▲②破砕施設



▲③破砕機投入口（限定公開）



▲④乾燥施設

契約外廃棄物混入の予防

お客様から受託した産業廃棄物は、弊社の処理基準に則り処理可能なものであるか否かによって、分別をお願いしています。

事前の契約とは違うものが混入されていた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、それが危険物であった場合は、事故や火災の原因になる可能性があります。

これらの混入があった場合は、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めています。また、お客様の事業所に設置しているコンテナ箱に混入禁止物の掲示板を設置するなど、予防にも努めています。



▲コンテナへの掲示

収集運搬時における過積載の防止

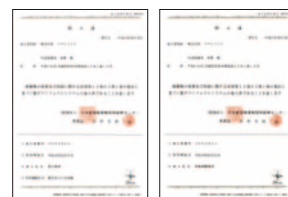
毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。積載量を超過した場合は、確認の連絡をして、お客様と一緒に原因を考え、その対策を講じています。

契約書、マニフェストについて

産業廃棄物の処理を委託及び受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。

弊社では、契約書の事前締結（実際に処理を受託する前に契約書を締結）の徹底を推進し、締結されないまま処理受託する法律違反を防止しています。取引の前に、お客様情報を事前に登録することにより、契約書締結の確認をおこなっています。

また、電子マニフェストも導入しており、お客様の要望に合わせて対応しています。（加入者番号：収集運搬業 2005941、処分業 3005863）



▲電子マニフェスト加入証（収集運搬・処分）

クラウドコンピューティングによるデータ提供

2010年12月より「E.Manager.neo」という廃棄物管理データ共有システムの提供を開始しました（1社あたり1アカウントまで無料）。

「E.Manager.neo」はマニフェスト伝票（産業廃棄物管理票）や処理コスト等のデータを共有するシステムで、排出事業者様はユーザー登録後、WEB上の専用ページにアクセスすることで、営業日単位や月単位で集計されたデータを確認・ダウンロードが可能です。電子データ化は弊社でおこない、データ更新は営業日毎におこなっています。お客様の廃棄物管理における手間と煩わしさを解消し、業務改善に貢献しています。

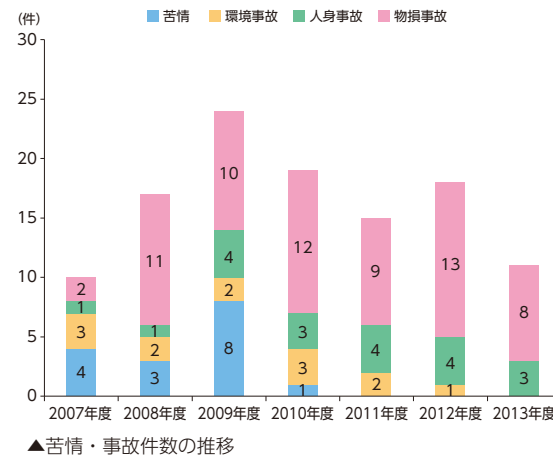
なお「E.Manager. neo」は、技術の応用力に優れたサービスとして、「平成23年西宮市 優良事業所顕彰」を受賞しました。



2013年度の苦情・事故は11件（苦情0件・環境事故0件・事故11件）で、昨年度18件（苦情0件・環境事故1件・事故17件）と比較し、事故件数は減少しました。

2007年度の労働安全衛生マネジメントシステム導入から軽微な事故も集計するようになったため件数が増加しましたが、乾燥施設が完成して4年目以降の2010年度からおおむね安全な運営が定着しています。

※2009年度～2012年度の苦情・事故はP.46～P.48に掲載しています



苦情 0件

環境事故 0件

人身事故 3件

内 容	原 因	対 策
倉庫内でフレコン袋を取ろうとして、床とピット開口部の境に気付かずピットに転落し、左胸肋骨を骨折した	以前から開口部があるのは知っていたが、フレコン袋に意識があり、足元を注意していなかった	該当箇所の穴をふさぎ、他にも同様の箇所がないかを確認した
処理施設で炎天下にタンク上及び内部にて作業していたところ、熱中症のような症状があらわれ病院に搬送した	作業の進捗が遅れていたため昼休憩を2時間遅くした。それにより作業時間が長くなり、十分な休憩がとれていなかった	・高温環境下で作業する時は、体温が下がるよう保冷剤入りベストを着用する ・作業の進捗状況に関わらず、時間通りに休憩を取るよう周知した
処理施設で山積み廃棄物を下側から選別していたところ、上から大きな廃棄物が落ちてきて小指を骨折した	作業の手間を減らすため、廃棄物を山積みのまま選別してしまった	重量物の場合は廃棄物を広げた上で選別する

物損事故 8件

内 容	原 因	対 策
提携先の処理場で荷卸しのため車両をバックをしたところ場内の柱に接触した	大丈夫だろうと思い込み、十分な後方確認ができていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
引取先にて、バックで進入し切り替えをしたところ、助手席側後角がシャッターレールに接触し損傷した	バック時の進入角度が通常より悪く、切り返しの際に前方に気をとられ、注意が散漫になった	事故内容を周知し、注意を喚起した
営業車を切り返してバックをした際に後方の電柱に接触した	車をバック中に足元に荷物が落ち、気をとられて注意が散漫になった	毎月1回は車内を整理するように、営業車の運転管理月報を改訂した
処理施設の積込場で開閉式の天蓋が開いたまま車両を発進し、手すりに接触した	天蓋の開閉確認を怠った	自動開閉の天蓋が閉まっているかを車両を降りて確認するよう周知すると共に、手順書を改訂した
駐車場で営業車を切り替えてバックしたところ、左前方がボールと接触した	精算機に気を取られ周囲の確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
積替保管場所のシートレールがゆがみ、レールの溶接箇所が外れていた	保管場所からはみ出た廃棄物を押し込むために重機を柱の際に寄せて走行したため	シートレールに反射テープを貼り、オペレータから見えるようにした
引取先でコンテナを設置後、アームを引き上げながら走行してしまい、上部鉄骨にアームを接触させ損傷した	何度も引き取りに行っており、慣れから接触しないだろうと油断してしまった	事故内容を周知し、注意を喚起した
ショベルで荷降ろし中に、荷台に衝立があることに気がつかず、ショベルで廃棄物を押して衝立を歪めた	衝立があることをショベルのオペレータに伝えていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した

▲乗用車運転管理月報



▲シートレール（左：是正前、右：是正後）



2014年9月10日、外部の方から弊社の取り組みや報告書などを評価していただく、「トップダイアログ」を開催し、リヴァックスが成長していくための意見交換をおこないました。



ダイアログ出席者



大室 悦賀 氏
京都産業大学 経営学部准教授

社会的課題をビジネスの手法で解決するソーシャル・ビジネスを主な専門とし、京都市ソーシャル・ビジネス支援実行委員会委員長、近畿ソーシャル・ビジネスネットワークワーキング統括ディレクターなど幅広く活動している。著書に『ソーシャル・ビジネス—地域の課題をビジネスで解決する』、『ソーシャル・イノベーション』他。



【ファシリテーター】
村上 卓 氏
村上卓事務所
組織・人財開発コンサルタント & ファシリテーター
米国 CTI 認定プロコーチ (CPCC)

人財開発コンサルティング会社にて、ビジネスの成果、現場の変化につながる組織開発、人財開発を行なうことを信条に、多くの大手企業を支援する。独立後は、持続可能な社会へのシフト促進に向け、志ある中小企業の支援も行なっている。また、現在は東南アジアにも活動を展開している。



赤澤 健一
株式会社リヴァックス
代表取締役社長

「CSR 報告書2014」を読んで —

とかくデータやグラフを羅列しがちな報告書が多い中、今回の報告書は、「人」に焦点が当てられているところが高く評価できる。時代はいま、様々な面で成熟していることもあり、人が紡ぐ、人が繋ぐといったことを重視し始め、もう一度「人間」に回帰する傾向が見られる。人の成長なくして、企業の成長はあり得ないのだから。そういう意味では、従業員にスポットライトを当てたところが、今回の報告書の大きな特長であるし、第4章はすごく大事だと思う。

それから、「CSR の考え方」と「経営理念」を1ページにまとめたところも良かった (P.3)。両者の関係が分かりやすいし、リヴァックスは売上高や利益だけを追求する会社ではなく、「想い」のある会社なのだということが伝わる。

ただ気になるのは、会社にとってマイナスの情報がまだまだ少ないところだ。実際の経営は、きれい事ばかりではないはずだ。だからマイナスの情報があって然り。苦情・事故 (P.40) をオープンにしているところは評価できるが、それ以外の情報が出てこないのは違和感がある。例えば、ヒヤリハット (P.30) は、もっと具体的に生々しい事例を載せてもいいし、人事制度 (P.32,33) についても、現在リヴァックスが抱えている問題を掲載すべきだ。離職率の推移をみると、2013年度は前年と比較して

従業員の離職率が高く、2年に1回の割合で、離職者が増減する現象が続いているようだが、原因は何か、真剣に探る必要がある。

会社として取り組みをしているにもかかわらず、効果が上がっていないものについては、なぜそうなのなのか、報告書で説明する必要がある。結果だけを報告書に載せて終わりではなくて、これらの情報を今後どう生かすかが大事である。

リヴァックスの課題

業績が順調であり、各種の情報開示や環境保全への取り組み、環境学習など先進的な取り組みをされている点は評価できるが、今回の報告書は「人」にスポットライトを当てられているのでその側面から何点か指摘したい。まず気になるのが、従業員の年齢構成（P.33）。30代の方が非常に多く、組織としては将来リスクを抱えていると言わざるを得ない。この偏りを是正する策を考える必要がある。

ダイバーシティ（価値観、人種、国籍などの違いを越えて働き合い、企業の価値を高めること）も、今後さらに重要になる。ダイバーシティの良さは、別の角度からものを見せてくれる人が関わってくれること。同じ視点でばかり考えると、見えてこないことがたくさんある。同じ見方や考え方を持つ単一的な人材ばかりだと、人のエネルギーを削いでしまうということだ。リヴァックスはダイバーシティの重要性は認識しているものの、まだ具体的な取り組みには至っていないようだが、多様な考え方を会社に取り入れることで、従業員を成長させる観点は非常に大切だ。

しかし、何をにおいても気になるのが、赤澤社長と従業員が、どのくらいの頻度でコミュニケーションをとっているかという点だ。最近の優良企業の条件に、『らしさ』がある。社員一人ひとりに、その『会社らしさ』が浸透しているかということだ。会社のトップと従業員のコミュニケーションの密度や頻度が、『らしさ』の浸透に大きく関わってくる。従業員に対し、ざっくばらんに「リヴァックスをこういう会社にしていきたい」と伝える場を、どれだけ設

けてきたか。それが最大の課題ではないだろうか。赤澤社長自身が、リヴァックスという会社を通じてどこに行きたいのか、そこに行くために、自分はどのようにしたいと思っているのか。それが見えないと、従業員は、自分の将来を会社の方向性と照らし合わせて考えることが難しいだろう。

これからの時代、確実に中小企業の淘汰が始まる。存在価値をきちんと持っていない会社には、おそらくもう人が集まらない。社長の想いを従業員に共感・共鳴してもらうのは難しい課題だが、そこをどうコミュニケーションで解決するかが最大のポイントだ。



新たな成長に向けて

中小規模の企業であれば特に、「経営理念」の上位にトップ自身の生き方を示す「哲学」があっていると思っている。トップの生き様そのものを経営理念に落とし込むのだ。

赤澤社長自身、単にお金儲けをするのではなく、会社や事業を通じて何かしら社会に貢献したいと思っている。その価値基準、価値判断をイメージ化して哲学にする。そして、それを社内だけでなく、広く一般に知らせていくことが重要だ。

同業者や地域住民、顧客に対して表明することで、共感や共鳴が生まれて「御社でこんなことができないか」と問い合わせが来るようになり、新たなコラボレーション事業が生まれる。すると自然に事業は拡大し、ノウハウもたまっていく。そうした「リヴァックスにしかできない事業の拡大」が生まれる構造になると、とても素敵だ。

従業員の意見や人事関連のデータなど、顕在化していることに焦点を当て、どうすべきかを一度整理する必要があるだろう。その上で、従業員のやる気を引き出す仕組み作りを、さらに考えていくことが重要だ。

特に、大きな比率を占めている30代の従業員が、10年～20年後に活躍できる場を確保するのは急務の課題だ。例えば、社内で「起業塾」を立ち上げ、その中から事業化する、といった手法はどうだろう。グループとしても広がっていくし、ポストも生まれ、そこに社長や役員が知識や経験を伝えていくのもい



い。

それから、社員の心理的ケアも大切だ。日本では、勤務に心理的なつらさを感じている人が7～8割もいると言われている。そんな中、リヴァックスはグループ社員の約70名にコーチングをおこない、自分を見つめ直してもらっているとのことだが、もう一歩進んで、メンタル面のサポートにまで範囲を広げて取り組んでほしい。

今後の成長に必要なのは「リヴァックスらしさ」だ。それを確実に創ることができれば、業界日本一の会社になることは十分可能だ。リヴァックスには廃棄物業界に留まらず、これからもさまざまな角度から展開していったほしい。さらに、そのような取り組みが利益につながるということが見れば、不法投棄などの問題も少なくなるし、業界のマイナスの印象も変わっていくはず。社会に対する想いのあるリヴァックスなら、それができると信じている。

ダイアログを受けて

貴重なお話をいただき、ありがとうございました。おかげさまで、リヴァックスを含むグループ3社とも、一昨年、昨年と業績が右肩上がりですべてきました。この2年間でステージを一気に駆け上がった分、会社のスピードに馴染めない、同じベクトルを向いていない、そのため役職者や勤続年数の長い従業員が期中で退職するという歪みが生じているような感じを受けました。

そこで、もう一度、社員に焦点を当て直そうと、2014年度は「人」の部分の取り組みに投資をしています。何が問題だったのか、そして、これから取り組んでいくことを、公に情報発信していく必要があると考えています。

お話を聞いていて、私自身、ネガティブな部分や効果の上がないことに目を背けていたところがあったと反省しています。しかし、あえてそこに目を向け、従業員、お客様、業界関係者、一般の皆様と対話することが、トップである私の仕事だと改めて確信しました。社長の私が一人で悩んで解決するの

ではなく、みんなで共有してみんなで解決する。それがすべての始まりになると思います。

リヴァックスグループを、さらに良い会社、力の強い会社、外部環境に適應できる会社にしていきたいと、最近つよく感じています。現場にすることが経営ではなく、自分の経営力を高め、ステップアップすることが、従業員が安心して働ける会社の構築につながります。みんなが安心して働ける職場があるからこそ、お客様や社会にも貢献できる。そんなプラスのサイクルを力強く進めていく勇気をいただきました。



廃棄物処理業界において企業の透明性を高めることによって、ステークホルダーの皆さまからご支持いただけるよう、さまざまな取り組みをしています。

2000年度

- ISO14001認証取得
- オフィスのエコ活動スタート

2002年度

- 「環境報告書2002」を発行



2003年度

- 西宮市内の小中学校で環境学習を実施
- 「環境報告書2003」を発行



2004年度

- エコスタイルの導入
- 「環境報告書2004」を発行



2005年度

- 「産廃情報ネット」にて情報公開
- 「環境報告書2005」を発行



2006年度

- 破碎施設をリニューアル
- ウェブカメラを設置
- Eメールニュースの配信スタート
- 社内ビジネススクール開講
- 業績報告会スタート（毎月1回）
- 「環境・社会報告書2006」を発行
- 「第4回パートナーシップ大賞」グランプリ 受賞
(主催：特定非営利活動法人パートナーシップ・サポートセンター)
- 「第10回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門奨励賞 受賞
(主催：環境省、財団法人 地球・人間環境フォーラム)
- 「第10回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」環境報告書賞 中小企業賞 受賞
(主催：東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム)



2007年度

- 乾燥施設の竣工
- 第三者委員会の開催（継続）
- 「CSR報告書2007」を発行
- 「第11回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 受賞
(主催：環境省、財団法人 地球・人間環境フォーラム)



2008年度

- リバース・マネジメントセンター竣工
- ISO14001・OHSAS18001統合認証取得
- 甲山農地プロジェクトにスポンサーとして参加（継続）



- 関西大学第一中学校の環境学習を支援（継続）
- 「CSR報告書2008」を発行
- 「第7回日本環境経営大賞」環境経営部門 環境経営優秀賞 受賞
(主催：三重県、日本環境経営大賞表彰委員会)

2009年度

- 社名変更（旧：大栄サービス株式会社）
- 「CSR報告書2009」を発行
- 「第6回エコプロダクツ大賞」エコサービス部門 エコプロダクツ大賞審査委員長特別賞（奨励賞）受賞
(主催：エコプロダクツ大賞推進協議会)
- 「第13回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞 優良賞 受賞
(主催：東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム)



2010年度

- 「CSR報告書2010」を発行
- 「CO₂マイナスプロジェクト」生活部門 特別賞 受賞
(主催：全国産業廃棄物連合会青年部会)



2011年度

- お客様満足度調査を実施
- 第2期社内ビジネススクール開講
- 3S活動スタート（継続）
- 「CSR報告書2011」を発行
- 「第15回環境報告書賞・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞 優良賞 受賞
(共催：東洋経済新報社、グリーンリポーティングフォーラム)
- 「西宮市優良事業所顕彰」 受賞



2012年度

- 「CSR報告書2012」を発行
- 環境経営特別賞 受賞
(主催：西宮商工会議所)
- 「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門 環境省産業廃棄物課長賞 受賞
(主催：公益社団法人全国産業廃棄物連合会 青年部協議会)



2013年度

- 優良産廃処理業者認定制度への適合
- 従業員意識調査を実施
- 「CSR報告書2013」を発行
- 「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 受賞
(主催：環境省、財団法人 地球・人間環境フォーラム)

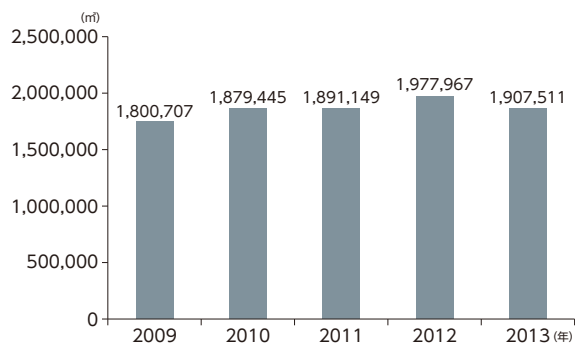


第6章

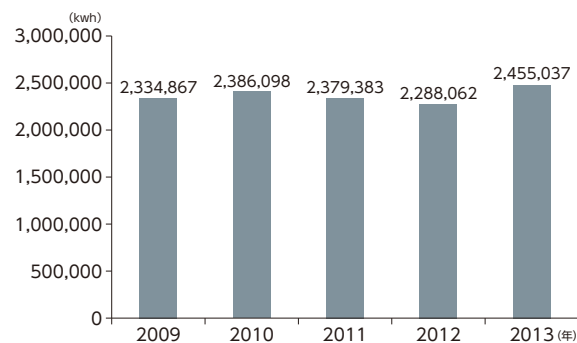
マテリアルバランスの経年変化

過去5年間の推移をグラフで示しています。INPUTとOUTPUTの数値を把握し、改善のための指標にしています。

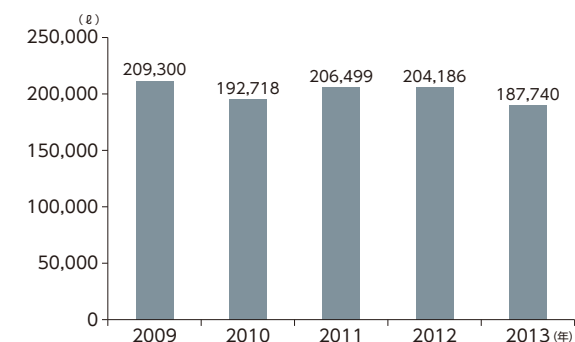
●都市ガス使用量



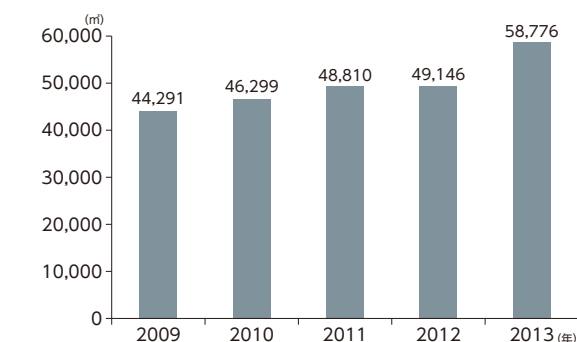
●電気使用量



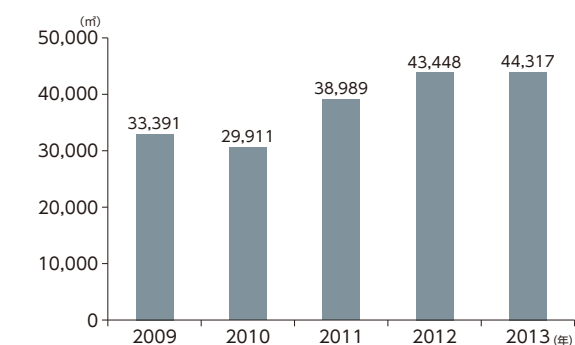
●軽油使用量



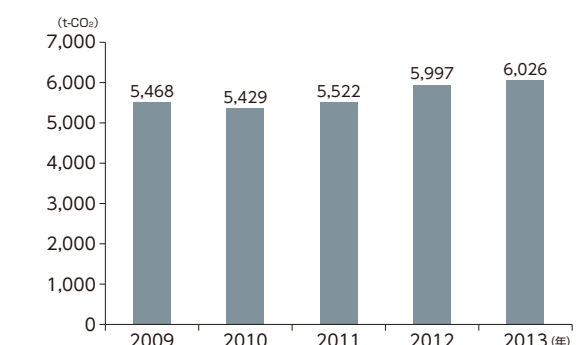
●水使用量



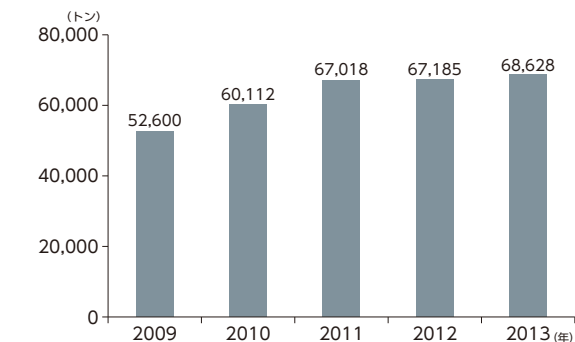
●水域への排出量



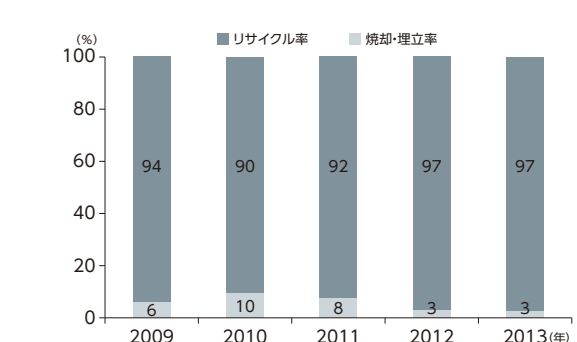
●CO₂排出量



●廃棄物取扱量



●リサイクル率／焼却・埋立率



2009年度から2012年度に発生した苦情・事故は次のとおりです。

2012年度に発生した苦情・事故

苦情 0件

環境事故 1件

内 容	原 因	対 策
平ボディ車で廃棄物運搬中に荷崩れを起こし、一部が落下した	積荷を十分に固定していなかった	平ボディ車の作業案件を洗い出し、問題の有無を確認すると共に、課員に注意を喚起した

人身事故 4件

内 容	原 因	対 策
乾燥施設でホッパーのメンテナンス時に周辺に設置してある刃が背中に刺さった	鋭い刃がある周辺で作業していた	メンテナンス時は刃をすべて取り外し、且つ、事前にKY（危険予知）活動を実施する
取引先にて紙管ドラム（約100kg）を積込時に腰を痛めた	コンテナにすべて積みもうと、無理をしてドラムを横倒しにして持ち上げた	重量物は重機等を使って積み込むよう周知し、当該取引先にも安全注意事項に追加していただいた
乾燥施設でグラインダーで配管を切断中、回転刃が弾かれて右ひざに接触し裂傷した	作業足場がなく、片手でグラインダーを使用していた	無理な体勢で作業する場合は、足場の設置を周知、且つ、外部の講習を受け安全教育を実施した
収集作業中に車両の荷台に登った際、右肩を脱臼した	加齢による身体能力低下に対する意識が欠けていた	当事者に注意を促した

物損事故 13件

内 容	原 因	対 策
排出先にてバックで進入中に、車両が壁と接触した	十分な後方確認ができていなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
営業先の駐車場で車をバックしていたところ、花壇と接触した	後方の安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
処理施設前で天蓋式コンテナを開けた時にウェブカメラに接触し破損した	早朝で施設前に人がいなかったため、駐車を特に意識することなく確認作業をおこなった	出発前の開閉確認は指定場所でおこなうよう課員に周知した
お客様先の駐車場にて停車している車両に接触した	運転に不慣れで車の切り返しの際に焦り、且つ、ハイヒールを履いていたため、ブレーキを踏むのが遅くなった	ヒールの高い靴（3cm以上）で運転しないよう女性社員に周知した
バイオマス燃料の積込時に車両キャビンにその塊が落下し、シート置場を破損した	鉄製容器内で固まっていた燃料がほぐれず、大きな塊のまま落ちてきた	塊がある場合は容器から指定場所に出し、塊をつぶしてから積み込むよう周知した
コンテナ内の鉄を重機で圧縮していたところ、その一部が落ち、重機のフロントガラスに亀裂が生じた	コンテナの高さ以上に鉄を積んでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
天蓋が確実に閉まっていない状態で車両を発進させ、処理施設のシャッターレールを損傷した	天蓋の開閉確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した
構内駐車場で進入した際に門支柱に衝突した	車両左側の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
荷降ろし作業のダンブアップ時に、コンテナ扉が破砕機の囲いに接触した	運転手と車両誘導員の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
高速道路にてハンドル操作を誤り、中央分離帯に衝突、車両が横転した	派遣社員で積載車両の運転経験が浅かった	経験者であっても、時間をかけて十分に教育し、力量が認められる者を従事させる
リフトで荷降ろし中にリフトのツメが提携先車両に接触した	リフトのツメ先の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
構内駐車場で駐車する際、停車している営業車に接触した	他の車両に気を取られ、車両右側の確認が足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
リフトで構内のパレットを整理中に、停車している車に接触した	積み上げたパレットで前が見えにくいにも関わらず、十分な確認を怠った	主任による運転指導を1ヶ月おこなった

2011年度に発生した苦情・事故

苦情 0件

環境事故 2件

内 容	原 因	対 策
引取現場にて廃棄物が漏えいした	廃棄物を入れる箱の蓋が故障していることに気が付かず、引取現場に行き作業をおこなった	出発前の点検事項に廃棄物を入れる箱の蓋が正常に開閉するかを点検することとした
粉体状の廃棄物を積み込み中に粉体物が飛散した	車両に覆いをせずに場外を移動していた	再び場内に入るためであっても、場外に出る際には、シートなどで覆いをする

人身事故 4件

内 容	原 因	対 策
乾燥施設で詰まり解消作業時に点検筒から湯をかぶり火傷した	詰まりを定期的に解消する手順がなかった。施設の内部を確認する手段がなかった。	定期的に詰まり解消作業を行なう。内部を確認できる開口部を設置した。
廃棄物を降ろす際に、扉のロックがかかっていない状態で車両が動き、誘導者が扉に手を挟んだ	誘導者と運転手の間での指示が明確に伝わっていなかった	誘導者と運転手の両部門で誘導時のジェスチャーを統一し、周知した
場内を移動中に、停車している車両の脱着装備に追突した	脱着装備が危険な位置のまま停車していた	車両を駐停車する際は、脱着装備を所定の位置に戻してから駐停車をする
重機から降車する際に、鉄製のレールの上に乗り、足元が滑り転倒した	不要なレールがあったから	レールを撤去し、関係者に周知した

物損事故 9件

内 容	原 因	対 策
駐車場から出庫する左折時に植木と接触した	入ってくる車両があり、急いで出庫しようと焦った	事故内容を周知し、注意を喚起した
引取先で停車中に他社の車両と接触した	先方が路上に停車中の車両に気を取られていた	事故内容を周知し、注意を喚起した
廃棄物保管ヤードで敷板（鉄板）をめくった	ショベルのバケツのエッジを立てて作業をしていた	関係部門にて作業手順を再度周知した
引取先で後方進入時に突出している設備に追突し破損した	車両の停車位置を気にしすぎて、突出物へ気が回らなかった	作業時には立会い者をつけてもらい、突出物事前にポールを設置した
緊急車両が通行し、急停止をしたために前方車両に追突した	車間距離が不十分であった	車間距離の保持に関する講習を実施し、運転手へ周知した
黄色信号で停止した前方車両に追突した		
場外で停車中に追突された	先方が道に迷っていて、ハンドル操作を誤った	危険箇所として関係部門へ周知し、注意を喚起した
修繕用機材（梯子）を運搬する際に、機材を電柱にぶつけた	近距離での輸送のためロープで梯子を固定していなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
コンテナ箱を設置する際に郵便ポストに接触した	他車の通行の妨げにならないように焦って作業をし、安全確認を怠った	事故内容を周知し、注意を喚起した

2010年度に発生した苦情・事故

苦情 1件

内 容	原 因	対 策
近隣の企業より悪臭に対する苦情の電話をいただいた	排水溝の会所に堆積した沈殿物が腐敗し臭気が発生していた	会所の清掃を定期的実施することとした

環境事故 3件

内 容	原 因	対 策
乾燥設備の中で爆りが発生した	糖分の高い廃棄物と乾燥しやすい廃棄物を同時に処理した場合に、爆りやすい性質になるという認識がなかった	廃液の糖度が15%以上になった時の手順を作成し、新たに手順書に追加した
廃液引き取り時に漏出した廃液が、お客様場内で漏洩した	廃液吸引用ホースが老朽化により破損していた	ホースの経年劣化がわかるように色分けのテープを貼って管理し、一定期間が過ぎたものは使用不可にすることとした
お客様先で作業中の吸引車両から油（燃料）が漏れた	メーカー推奨の整備点検はおこなっていたが、点検項目にない箇所から燃料漏れが発生した	今回燃料漏れがあった箇所を含め点検項目を見直し、新たな整備点検項目を追加した

人身事故 3件

内 容	原 因	対 策
ロール状の廃棄物を積み込む際に手を挟み、指を負傷した	グループ会社からの短期間の出向者であったにもかかわらず、単独で不慣れな作業をさせてしまった	短期間の出向者や派遣の受け入れ時にも、全ての教育を受けさせ、且つ一定期間のOJT期間を設け力量認定した後、作業従事させることとした
雨天での自転車通勤時に転倒した	衝突を避けようとして雨天時のタイル上で急ブレーキをかけた	事故の内容を周知した
重機が踏みつけた廃棄物が飛来し、作業員にあたって足を負傷した	重機の補助作業時に危険な場所で待機していた	重機の補助作業を行う際の安全な待機場所を決め、ミーティングで全作業員に周知した

物損事故 12件

内 容	原 因	対 策
お客様先で廃棄物保管コンテナを引き上げる際に引き上げフックが外れ、コンテナを落下させた	フックがかかっている状態ではない状態で廃棄物コンテナを引き上げてしまった	廃棄物コンテナ引き上げ作業時には、キャビンから降りて、コンテナが確実にフックにかかっていることを目視確認する手順を作成し、新たに手順書に追加した
荷下ろし作業のダンプアップ時に、積換保管用ピットの天井部分に荷台が接触した	車両誘導員と運転手とのコミュニケーションが足りなかった	事故内容を周知し、注意を喚起した
駐車場で車両移動中に停車車両と接触した	いつも停まっているところに車があり、大丈夫だろうと思いこんでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
提携先の収集運搬委託業者が引き取り時に、廃棄物コンテナ保管建屋内の設備に接触した	初回引き取り前に、弊社担当者から委託業者へ行なう、注意事項連絡に、保管施設の高さ等の記載がなく不備があった	初回引き取り前の確認項目について見直しをおこなった
営業車両で停車時に左前輪を縁石にあててしまい、ホイールキャップを破損した	急いでいたための注意力が不足していた	事故内容を周知し、注意を喚起した
駐車場でコンテナ引き上げ作業中に駐車車両と接触した	駐車場内が車両動線に余裕のない配置となっていたため	駐車場内の配置を変更し、車両動線に余裕をもたせた
営業車がコンビニ駐車場を出る際に、バックで移動中にバック中の車両と衝突した	死角にあったため、何もないだろうと思いこんでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した
臭気拡散防止用のシャッターが開き切る前に汚泥ピットに荷降ろしし、汚泥の重みでシャッターを破損した	シャッターが開き切っていることを運転手が確認していなかった。また、誘導員も汚泥が落ちてくる前にシャッターが開くだろうと思いこんでいた	荷降ろしする際、シャッターが開き切るまでは停止線で停車させる手順を追加し、関連部門及び外部搬入事業者にも周知した
一般道で前方にて左折しようとしていた車に追突した	前方車両が停止することなく左折するだろうと思いこんでいた	事故内容を周知し、注意を喚起した。また、外部講師による安全運転教育を教育プログラムに追加した。
自動開閉シートシャッター出入口にて一旦停止していた車両に、時間切れでシャッターが下りてきて、車両と接触し、シャッターが破損した	センサーに死角があった	確実に車両がセンサーにかかるようにセンサー設定位置を変更し、関連部門に変更内容を周知した
駐車場でコンテナを吊り上げたときに、場内建物の屋根を破損した	場内の車両配置が窮屈で安全動作がとりにくい	場内の車両配置を変更し、建物の屋根の下には車両が入れないようにした
駐車場で荷物が入ったコンテナを引き上げた際に、接続が不完全でコンテナが半回転した	接続部分のレールが見えにくい	レールを明るい色に塗装し、見えやすいようにした。コンテナ装着時には車両から降りて目視確認をする手順を追加した

2009年度に発生した苦情・事故

苦情 8件

内 容	原 因	対 策
近隣から西宮市に、処理施設から悪臭がするとの電話があり、市の担当者が確認に来られた	脱臭燃焼装置の熱交換器閉塞による緊急トラブルが発生し、臭気が外部に出てしまった	熱交換器閉塞の予防措置として、熱交換器の清掃を定期的（2週間に1度）に実施する
近隣の企業より来社され、処理施設から悪臭がするとの申し出があった	薬液洗浄施設の充填物の洗浄をおこなっていたため、乾燥プラント内の雰囲気臭が未処理のまま外部に出てしまった	プラント定期メンテナンスの状況を説明し、薬液洗浄施設のメンテナンスを最優先に対応した
近隣の企業より来社され、処理施設から悪臭がするとの申し出があった	排水処理施設調整槽の臭気吸引不足による悪臭漏れ	調整槽の臭気吸引不足を改善するため、臭気吸引ブロワを1台追加した
近隣の企業より来社され、処理施設から悪臭がするとの申し出があった	雨水排水溝の会所に堆積していた沈殿物の臭気による悪臭発生	雨水排水溝の清掃を実施した。翌月以降毎月1回清掃を実施するよう手順を追加した
近隣の企業より、処理施設から悪臭がするとの電話をいただいた	臭気の原因が、臭気を処理している薬剤の匂いであった	施設に来ていただき、臭気を処理している薬剤の匂いであることを説明し、納得いただいた
近隣の企業より、リパース・マネジメントセンター付近から悪臭がするとの電話をいただいた	汚泥排出後の車両の荷台を、隣接工場から数メートルしか離れていない駐車場で洗浄していたため	汚泥排出後の荷台洗浄を処理センター内で実施するように手順を変更した
お客様から、場内を走行する時の運転が荒いとの電話をいただいた	運転手への教育不足	部門ミーティングにて周知をした
お客様先の工場から退出する際に、運転手がガードマンの停止指示を無視して退出したとの電話をいただいた	前を行く車両に続いて退出し、ガードマンに気付かなかった	収集運搬を委託しているグループ会社へ安全意識向上と周知の依頼をおこなった

環境事故 2件

内 容	原 因	対 策
お客様先で廃棄物保管用に設置していただいている脱着式コンテナから廃棄物が漏えいした	コンテナの老朽化により、溶接個所が破断していて、漏えいした	老朽箇所を修理した。また、発生時に対応して、吸着シートを車両へ常備した
	漏えい防止用に張っていたゴムパッキンが老朽化していた	ゴムパッキンを厚いものに変更した。後ろ扉の締め付け金具を2個タイプから3個タイプのものに変更した。

人身事故 4件

内 容	原 因	対 策
プラント洗浄に使用した、高圧温水洗浄機の片付け時に洗浄機内に残っていた温水で火傷した	レンタルした高圧温水洗浄機であったため、機器使用のリスクアセスメントができていなかった	機械を新たにレンタルする際も、リスクアセスメントを実施することにした
降雪時に斜面で作業をしていて、滑って転倒し、右腕を骨折した	滑りやすい傾斜での作業を通常の靴で行っていたため	地面が凍結しているときに履く滑り止めの安全靴を支給した
提携先の中間処理施設の荷下し時に廃棄物保管ピットに転落した	保管ピット前で、車両荷台の後ろ扉を無理な体勢で開けようとしたため	車両荷台の後ろ扉を開けるための専用道具を全車両に装備した
事務所階段で踏み外して骨折した	電気をつけずに階段を上ったため	部門ミーティングで周知した

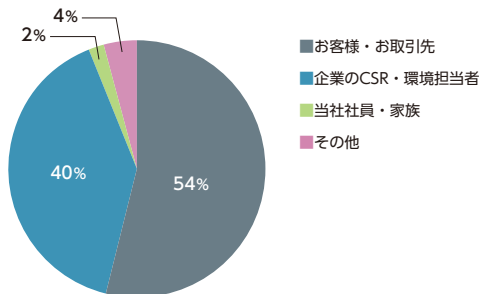
物損事故 10件

内 容	原 因	対 策
処理センター内でリフト作業中に保管容器同士を接触させた	安全確認を怠って作業していたため	事故内容を周知し、注意を喚起した
提携先の中間処理施設で搬入中に車両を設備に接触した	車両後進中で後方にばかり気を取られていたため	部門ミーティングで危険箇所として周知した
お客様先でリフト作業中にリフトを破損した	安全確認を怠って作業していたため	事故内容を周知し、注意を喚起した
お客様先で脱着式コンテナを設置中に側溝のグレーチングを破損させた	グレーチングを保護する鉄板がずれていることに気付かず、コンテナを下ろしたため	グレーチングと保護用鉄板の間にゴムを入れて、ずれ防止対策を行なった
お客様の廃棄物保管ヤードのシャッターを破損した	廃棄物保管庫のシャッターが脱着式コンテナと接触しそうな位置にあるという認識がなかった	部門ミーティングで危険箇所として周知した
停車中に追突された	先方の前方不注意	部門ミーティングで事故内容を周知した
営業車両が左折時にガードレールと接触した	安全確認不足	事故内容を周知し、注意を喚起した
お客様先で重機作業中にカーテンレールを破損した	積み込む廃棄物が粉体で、飛散が激しく視界が悪かった	当該廃棄物を積み込む際には散水して、積み重機に保護カバーを取り付けていただいた
提携先の収集運搬車両が汚泥を荷下し中に弊社の貯留槽を破損した	前後進をする際に、誘導員の指示が不明瞭だった	荷下し場所にマーキングをおこない、車両ごとに前進可能距離を運転手に伝えることにした
場内でリフトの作業中に停車中の車両と接触した	倉庫内の狭い場所で焦って運転をしていたため	リフト通行スペースを決めて、ラインテープを貼り、荷物を置かないように周知した

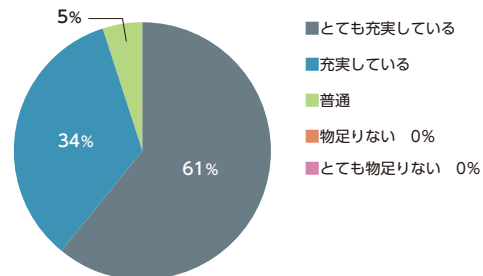
中核主題および課題		対応ページ
6.2	組織統治	P.3～6, P.14
6.3	人権	
6.3.3	デューディリジェンス	P.3, P.14～15, P.35～36, P.41～43
6.3.4	人権に関する危機的状況	—
6.3.5	加担の回避	P.32～34
6.3.6	苦情解決	P.32～33
6.3.7	差別および社会的弱者	P.32～33
6.3.8	市民的および政治的権利	P.32～36
6.3.9	経済的、社会的及び文化的権利	P.32～33
6.3.10	労働における基本的原則及び権利	P.32～33
6.4	労働慣行	
6.4.3	雇用及び雇用関係	P.3, P.32～34
6.4.4	労働条件及び社会的保護	P.30, P.32～33
6.4.5	社会対話	P.14～15, P.33
6.4.6	労働における安全衛生	P.30, P.33, P.40, P.46～48
6.4.7	職場における人材育成及び訓練	P.31, P.34
6.5	環境	
6.5.3	汚染の予防	P.26～29
6.5.4	持続可能な資源の利用	P.22～25
6.5.5	気候変動の緩和及び気候変動への適応	P.21～22, P.45
6.5.6	環境保護、生物多様性及び自然生息地の回復	—
6.6	公正な事業慣行	
6.6.3	汚職防止	—
6.6.4	責任ある政治的関与	—
6.6.5	公正な競争	P.3
6.6.6	バリューチェーンにおける社会的責任の推進	P.3
6.6.7	財産権の尊重	—
6.7	消費者課題	
6.7.3	公正なマーケティング・事実に即した偏りのない情報・及び公正な契約慣行	P.16, P.37～39
6.7.4	消費者の安全衛生の保護	P.7～8, P.23～24, P.39
6.7.5	持続可能な消費	P.7, P.9～11, P.19
6.7.6	消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決	P.39～40, P.46～48
6.7.7	消費者データ保護及びプライバシー	—
6.7.8	必要不可欠なサービスへのアクセス	—
6.7.9	教育及び意識向上	P.19, P.37～39
6.8	コミュニティへの参画およびコミュニティの発展	
6.8.3	コミュニティへの参画	P.37～38, P.41～43
6.8.4	教育及び文化	P.37～38
6.8.5	雇用創出及び技能開発	P.34
6.8.6	技術の開発及び技術へのアクセス	—
6.8.7	富及び所得の創出	—
6.8.8	健康	P.21, P.27～28
6.8.9	社会的投資	P.37～38

2013年10月に発行しました「CSR 報告書2013」に対するアンケート結果は以下のとおりです。頂戴しました貴重なご意見・ご感想は、今後のCSR 報告書の誌面作りや弊社の事業活動に生かしてまいります。

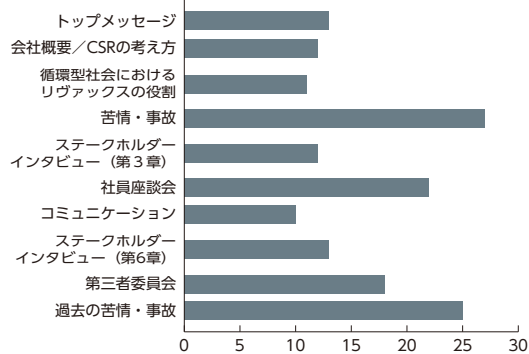
■アンケート回答者の内訳



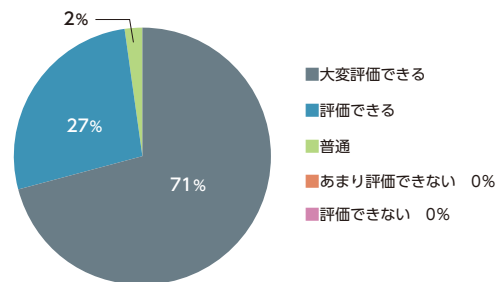
■報告書の内容



■関心の高い内容（上位10項目／複数回答可）



■報告書に記載の取組みについて



■主なご意見・ご感想

- 第三者の意見を大切に、決して自己満足の報告書で終わらせていないところが素晴らしいと思います。
- 環境関連事業としてCSRに取り組む重責を責任感と自主性をもって取り組んでおられ、とても好感を持ってました。
- インターンシップ生の吉田君の意見を取り入れ、よりすっきりと読みやすくなりました。読者に何を訴求したいのかがよく伝わってきました。あとは情報を引き出す勇気ではないでしょうか。
- 社員や家族、ステークホルダーの方々の生の声が多数掲載されており、温かみと説得力のある内容だと楽しく拝見しました。CSRレポート、環境報告書の側面は当然外せない部分で、堅い部分の内容との共存にご苦労される部分ではないかと推察しますが、弊社も勉強させていただきたいと感じました。

- 読みやすく、内容が充実していると思います。特に事故・苦情の情報公開は、会社としては腰が引けてしまう分野ですが、貴社は隠さずに公開されている。経営トップの信念のようなものを感じます。あえて気になった点をあげれば、フォントサイズの話です。読みやすさの点からもう少し大きなサイズを採用したほうがいいのかも知れません。
- リヴァックス様の様々な取組みが良くわかり、興味深く読ませていただきました。会社の内外の視点を両側から取り上げたところも良かったです。
- 社内だけでなく、外部からの声を入れることで、とても読みやすく、同じ業種ではない方でもわかりやすいと感じました。

※発行部数7,000部

編集後記



2014年10月
CSR推進室 新田 理恵

「CSR 報告書2014」をお読みいただき、ありがとうございます。また、4人のインターンシップ生をはじめ、本報告書の制作に携わってくださったすべての方に心より御礼申し上げます。

発行13年目を迎えた今回は、従業員に焦点を当て、いくつかの取組みに対する掘り下げや、人事に関わる内容を充実させました。また、これまでの「第三者委員会」同様、外部の方のご意見をいただく場として「トップダイアログ」を開催し、リヴァックスの課題を再認識すると共に、これからに繋がる対談となりました。

ぜひアンケートにて率直なご意見・ご感想をお聞かせください。お待ちしております。

お問い合わせ先

株式会社リヴァックス

〒663-8142 兵庫県西宮市鳴尾浜2-1-16

TEL:0798-47-7626 FAX:0798-41-5680

<http://www.revacs.com/>

●本報告書について

株式会社リヴァックス CSR推進室

E-mail: csr@revacs.com

●社長ホットライン

https://f.msgs.jp/webapp/form/17359_rrz_5/index.do

本報告書は弊社ホームページでもご覧いただけます (PDF版)

<http://www.revacs.com/biz/web/download/#jq-csr>

Contact information

REVACS Corporation

2-1-16, Naruo-hama, Nishinomiya-city, Hyogo,

663-8142 JAPAN

TEL: +81-(0)798-47-7626 FAX: +81-(0)798-41-5680

<http://www.revacs.com/>

●Inquiry as to report

CSR Promotion Section, REVACS Corporation

E-mail: csr@revacs.com

This report is available on our website (PDF version)

<http://www.revacs.com/biz/web/download/#jq-csr>